

社会教育に関する調査研究  
統括コーディネーター 実践事例集

# 教育委員会とコーディネーターの連携 (生涯学習課)

～統括コーディネーターのあり方をめぐって～



岡山県生涯学習センター  
平成29年3月

はじめに

開始から6年が経過したおかやま子ども応援事業では、地域における様々な活動の中で、地域や学校に深い理解と関心を持ち、熱意を持って献身的に取り組んでおられることに対し、心から感謝申し上げます。

さて、おかやま子ども応援事業はみなさんのおかげをもちまして、それぞれ充実した活動になってきています。それらの活動をさらに充実させるために新たに必要になってきたことがあります。それは、中学校区を統括する地域コーディネーター（中核コーディネーター（後述））の存在です。

中核コーディネーターは、現在、学校支援、放課後・土曜日等支援、家庭教育支援について個々に進めている活動をそれぞれのコーディネーターなどの人と人、人と施設をつないだり、地域の人材や資源を活用したりしながら、課題解決ができる地域の核となる実践的リーダーのことで、今までの活動と全く異なるものではなく、「中学校区の地域コーディネーター」というイメージで、いわば、「コーディネーターのコーディネーター」です。キャッチフレーズは「支援」から「連携・協働」へ、「個別の活動」から「総合化・ネットワーク化」へ。

当センターでは、地域コーディネーターと教育委員会とのかかわりに着目して調査研究を行い、県内の素晴らしい実践を見ることができました。

そこで、事例をまとめ、広く情報発信し、統括コーディネーター・中核コーディネーターの配置を推進する気運を高めることをねらいとした本事例集を作成しました。

本事例集が、子どもたちを取り巻く豊かな環境づくりの推進につながれば幸いです。

終わりにになりましたが、取材を快く引き受けてくださった、美咲町立旭小学校学校支援地域本部地域コーディネーター飯田純子さん、勝央町教育委員会社会教育主事三戸祥恵さんをはじめ、美咲町立旭小学校、美咲町立旭中学校、美咲町教育委員会、勝央町教育委員会、NPO法人の皆様、本事例集の作成に当たってご協力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

岡山大学大学院教育学研究科 熊谷愼之輔教授には本調査研究の検討委員として貴重なご指導をいただきました。心から感謝申し上げます。

平成29年3月

岡山県生涯学習センター 所長 岡本 啓

# 目次

1	研究の視点 岡山大学大学院教育学研究科 熊谷愼之輔教授	1
2	おかやま子ども応援事業について	3
3	実践事例	
	○地域コーディネーターの取組	
	美咲町・旭中学校区	5
	①概要	
	②美咲町立旭小学校・中学校支援地域本部地域コーディネーター 飯田純子さん	6
	③コーディネート機能	7
	・のびのびサタデー実行委員会	8
	・旭小学校ボランティア連絡会	9
	・美咲町地域コーディネーター連絡会	11
	④多様な活動	13
	・学校支援	15
	・放課後支援	17
	・土曜日等支援	21
	・家庭教育支援	23
	○社会教育主事と地域コーディネーターとの連携	
	継続できる安定的な体制づくり・勝央町	27
	○統括コーディネーターのあり方	31
	統括コーディネーター像を提言	
4	中核コーディネーターチェックリスト	33
5	資料 小学校との連携として、放課後・土曜日等支援（夏休み等の長期休業含む） において公民館等で実施が考えられる講座（教科・領域別）	35
6	中核コーディネーターQ&A	40

## 研究の視点

平成27年12月に中央教育審議会において取りまとめられた「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について）」（以下、「答申」と略）において、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進すること、この活動を推進するための新たな体制として「地域学校協働本部」を整備することが示された。

そのためには、コーディネート機能を強化することが不可欠であり、これまでの「地域コーディネーター」に加えて、「答申」では「統括コーディネーター」の委嘱や配置が新たに提案された。

その役割としては、地域の実情に応じて、地域コーディネーター間の連絡調整、地域コーディネーターへの助言・指導、未実施地域における「地域学校協働活動」の推進等があげられている。いわば、地域コーディネーターのコーディネーターといえる「統括コーディネーター」は、従来の学校支援地域本部等を基盤として「地域学校協働本部」を整備、つまり、「支援」から「連携・協働」へ、「個別」の活動から「総合化・ネットワーク化」へと発展させていくうえで重要なカギを握る存在といっても過言ではない。

だからといって、「統括コーディネーター」だけに、期待を寄せすぎるのは危険だろう。しかも、あまり彼らの役割のハードルをあげると、これからの委嘱や配置を検討していく際にも支障が生じる恐れがある。そのため、「統括コーディネーター」のあり方としては、市町村の教育委員会に置かれる社会教育主事等の社会教育関係職員と連携・協働して、取り組みをすすめていくものと考えの方が現実的だろう。ただし、「統括コーディネーター」の配置はこれからであり、彼らのあり方を探るには、現在、地域コーディネーターとして活躍中で「統括コーディネーター」への委嘱が予想される方が精力的に取り組んでいる事例（岡山県美咲町）や、教育委員会の社会教育主事が町村全体を意識し、地域コーディネーターと連携して取り組みをすすめている事例（岡山県勝央町）を調査対象として研究を行うことが有効と考えた。

このような問題意識のもと、本研究では、地域コーディネーターと教育委員会（社会教育主事）とのかかわりに焦点をあて、両者がいかに連携・協働していくかについて検討する。さらに、そのことを通して、これからの「統括コーディネーター」像を探り、その岡山県版のあり方について考察していきたい。

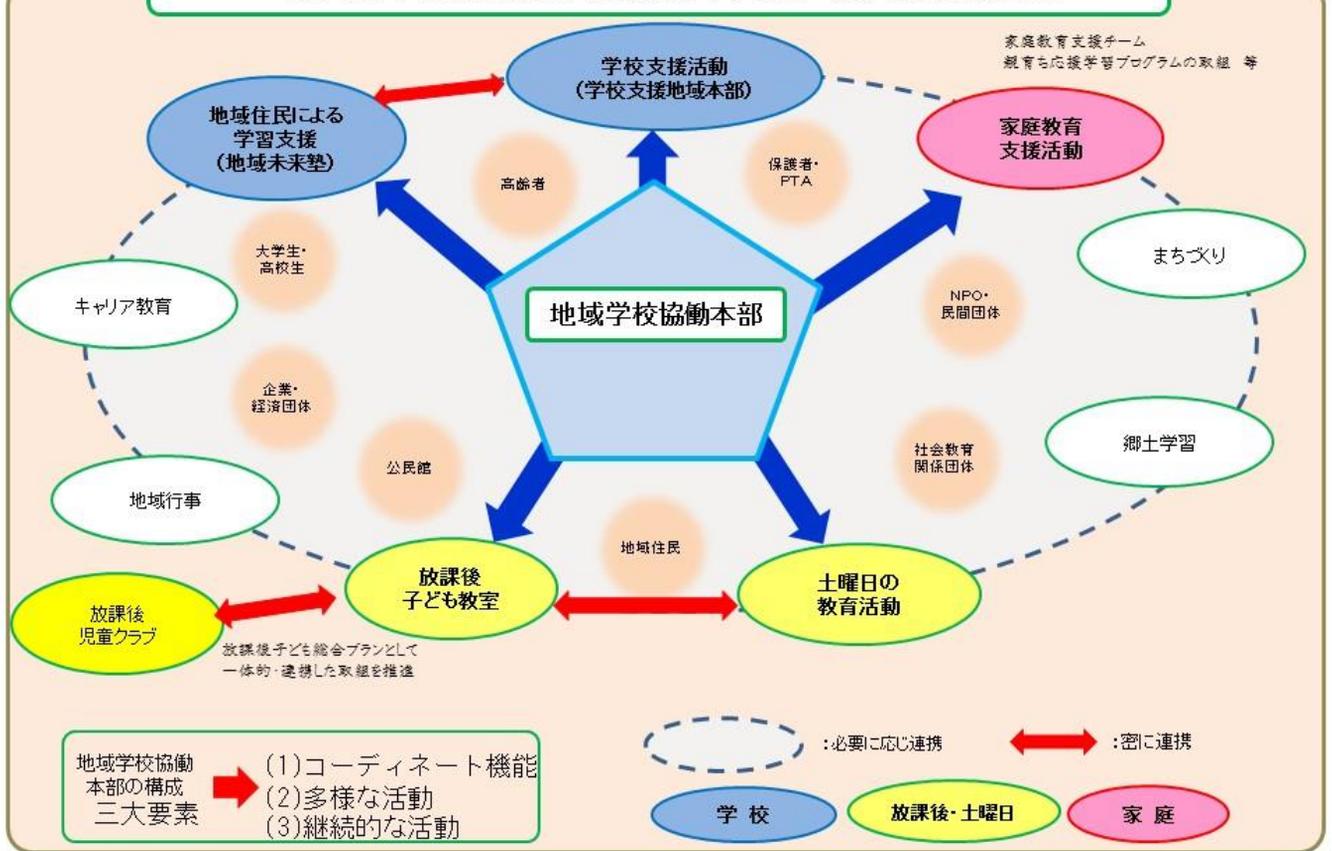
（岡山大学大学院教育学研究科 熊谷愼之輔教授）



# おかやま子ども応援事業について

【目指す姿】

「おかやま子ども応援事業」等の実施によりめざす地域の教育支援体制



○これまでのおかやま子ども応援事業（学校支援地域本部、地域未来塾、放課後子ども教室、土曜日教育支援事業、家庭教育支援）をベースに支援を拡充  
 ○地域の現状に合わせ、地域住民や様々な団体の「緩やかなネットワーク」を形成し、子どもの発達に応じた継続的な支援や子どもを巡る課題の解決

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要があります。

そのため、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（地域学校協働活動）を推進します。具体的には、学校・家庭・地域が連携・協働し、地域住民等の参画による地域の実情に応じた取組を有機的に組み合わせて、様々な活動を行います。

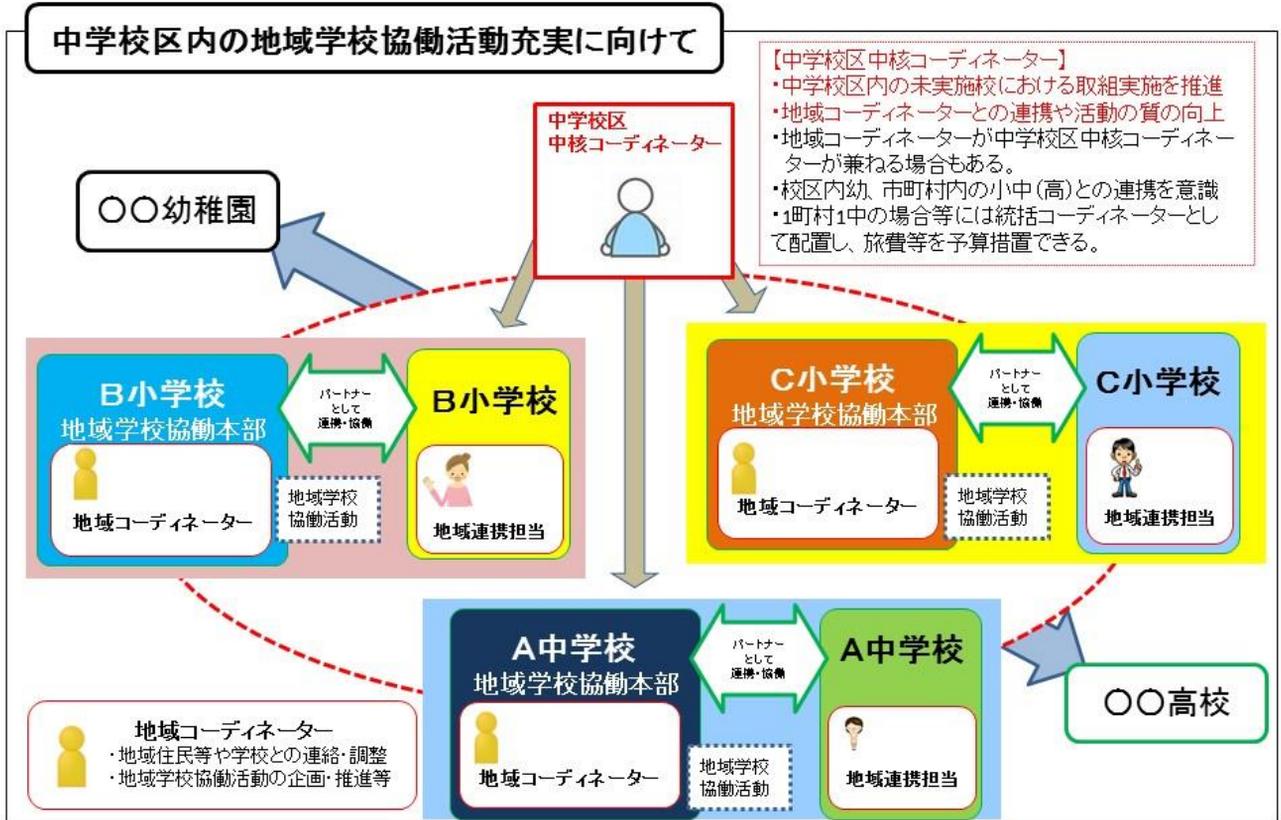
- (1) 授業等における学習補助や教員の業務補助などの学校支援活動
- (2) 学習が遅れがちな中学生・高校生等を対象とした原則無料の学習支援（地域未来塾）
- (3) 放課後等に全ての子どもたちの安心安全な活動場所を確保し学習や様々な体験・交流活動の機会を提供する放課後等支援
- (4) 保護者への学習機会の提供や相談対応などの家庭教育支援

また、これらの取組を通じて、子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化を推進します。

（おかやま子ども応援事業実施要領 1 事業の趣旨より）

# おかやま子ども応援事業・統括コーディネーターについて

 <p><b>市町村 統括コーディネーター</b> (市町村レベル原則市町村に1名)</p>	<p>【統括コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村内の未実施地域における取組実施を推進</li> <li>・地域コーディネーターの資質や活動の質の向上</li> </ul>
---	--



## 統括コーディネーター等の配置

市町村は、事業の実施に当たり、これまでの学校支援活動などを基盤として「支援」から「連携・協働」へ、また、「個別の活動」から「総合化・ネットワーク化」を目指し、地域学校協働活動を推進する体制として「地域学校協働本部」の整備に努めることとしています。なお、これまでの経緯やそれぞれの地域の特色を踏まえ、独自の名称も使用することが可能です。

市町村は、地域コーディネーターを統括する立場として、地域コーディネーター間の連絡・調整、地域コーディネーターの確保・人材養成、未実施地域における取組の促進等を図るための「統括コーディネーター」を配置することができます。

(おかやま子ども応援事業実施要領 3 事業の内容より)

※後述しますが、岡山県では中学校区内の地域学校協働活動充実に向けて、中学校区の中を統括する地域コーディネーターのことを「中核コーディネーター」と名付けます。



## 旭小学校・中学校支援地域本部 地域コーディネーター 飯田純子さん



美咲町にはまたとない、貴重な人の財産がある。旭小学校・中学校地域コーディネーターの飯田純子さんである。美咲町・旭中学校区において多様な活動が展開されている。また、横の連携を生むコーディネート機能も発揮されている。美咲町・旭中学校区のそれを可能にしているのは飯田純子さんという地域コーディネーターの存在だ。

飯田さんは、平成13年の民生委員・主任児童委員がスタートで、以降、平成20年旭小学校・学校支援地域コーディネーター、平成24年旭中学校・学校支援地域コーディネーターと活動を広げ続けている。

飯田さんが代表理事を務めるNPO法人ファミリーリングあゆむのキャッチフレーズは、「あかるいえがおで ゆめをもって」「むげんにひろがれ みんなのあゆむ」である。このキャッチフレーズのように、飯田さんは一つの活動から次の活動をどんどんつなげている。また、飯田さんはのびのびサタデー実行委員会をはじめ、他に多くの講師もするなど活動は多岐にわたっている。

—扉をあける人—、—ないなら自分でつくる—。

ふだん社会教育に関することで人と話していて「この人は扉をあける人だな」と思うことがある。反対に「扉をあけない人だな」と思うことがある。「社会教育推進に関係することで、何かをしない理由を探して結局何もしない」というのと対極で、飯田さんは自分から進んで世界を広げていき、人の役に立つことを喜びとする。もちろん、それは飯田さんご自身の大きな喜びでもある。飯田さんと話せば、何か行動する道がきっと見つかるような気がする。まず、親身になって受けとめてくれる。必要と感じたら何とかしようと本気で考えてくれる。その場で即決することも多い。必要なことが出てくれば、やる。ないものはつくる。

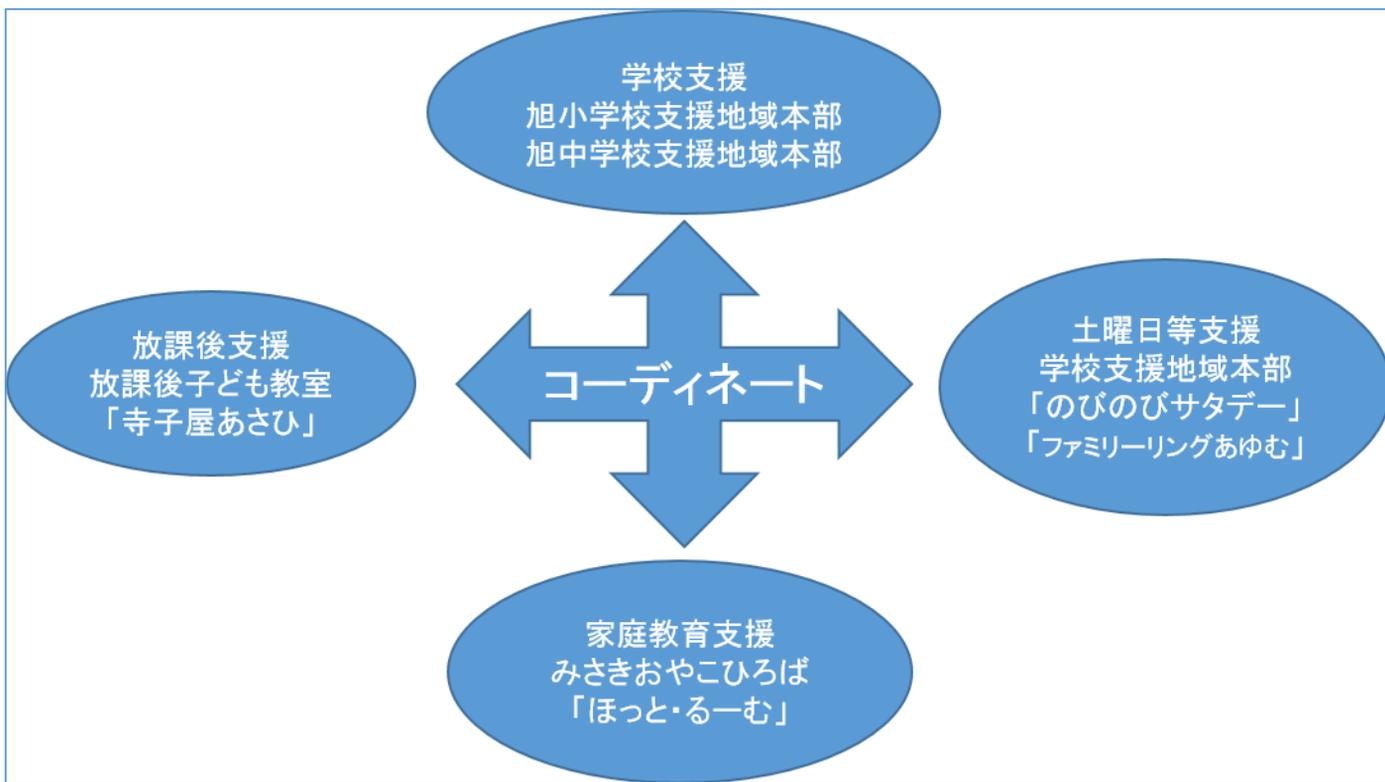
飯田さんの活動は本当に多岐にわたっている。しかし、すべてを一人で行っているわけではなく、そこには参画にできるだけ多くの人に関わってもらいたいという気持ちから、ボランティアの方々の特性を生かした上で役割を分担し、うまく割り振るという運営上の工夫も生かされている。

飯田さんは特に次のことに気をつけている。

- 個人情報に気をつける（まちがったいろんなところに情報が拡散しないように）
- 一人一人環境が異なるから、その人に合ったような対応をする。
- 各関係機関と最新の情報や結果を共有する
- 各関係機関と確認をとって行動する。
- 関わり方の役割分担をする。

これから飯田さんの多くの実践をご覧いただくが、ここで一言言っておきたいことがある。それは「飯田さんだからできる」とは思わないでいただきたいということだ。地域コーディネーター一人一人が自分のよさを生かした統括コーディネーター像で進めていければいいと考えている。

# 団体のつながり



みつける・かたちづくる・つなげる・ひろげる・そだてる

飯田さんは旭中学校区内の団体をつなげている。ここに示すすべての団体に関わり、連絡調整を行っている。学校支援、放課後支援、土曜日等支援、家庭教育支援をつないでいる。

また、美咲町教育委員会生涯学習課が主催しているおかやま子ども応援事業実行委員会で情報交換が行われている。飯田さんが取り組むスタンスとして、みつける・かたちづくる・つなげる・ひろげる・そだてるを挙げている。

## ○学校支援

旭小学校支援地域本部、旭中学校支援地域本部

## ○放課後支援

放課後子供教室「寺子屋あさひ」（放課後子供教室「寺子屋あさひ」は町委託事業であり、NPO法人放課後子供教室「寺子屋あさひ」が企画。運営している。町内4カ所で行われている。）

## ○土曜日等支援

「のびのびサタデー」（のびのびサタデー実行委員会が企画・運営している。実行委員会は旭小学校の保護者・地域住民・学校教員で構成されている、PTAではない任意の団体である。）

「ファミリーリングあゆむ」（NPO法人である。飯田さんが代表を務めている。）

## ○家庭教育支援

「ほっと・るーむ」（みさきおやこひろば「ほっと・るーむ」運営委員会が企画・運営している。運営委員会は美咲町青少年健全育成連絡会・NPO法人ファミリーリングあゆむ・社会福祉法人美咲町社会福祉協議会・美咲町共同募金委員会で構成されている。）

# のびのびサタデー実行委員会

- 目的 子どもと大人が交流し、子どもの居場所づくりを行う。
- 主催 のびのびサタデー実行委員会
- 対象 のびのびサタデー実行委員
- 場所 美咲町立旭小学校
- 日時 7月21日(木) 19:00~21:00(活動の前後)
- 当日の活動の様子



のびのびサタデー実行委員会は保護者・地域住民・学校教員で構成されて

いる、PTAではない任意の団体である。活動の前後に実行委員会を行い、

振り返りや事前の打ち合わせをしている。取材日当日は、夏のキャンプ体験の打ち合わせが中心であった。真剣さの中にも明るい笑いが入るいい雰囲気である。飯田さんが司会で、1つ1つ協議していく。校長先生もどンドン意見を言う。ときおり笑い声がおきる。下見で撮影しプリントアウトした写真を見ながら当日の流れを確認していく。(抜粋)

## ■カレーづくり

夕食の話からスタートした。めざす子ども像はすでに共有している。「主体的に活動する子ども・できることは自分でする子ども」である。夕食はカレーで、子どもたちで肉も野菜も切らせる。「とんかつ用ロース肉が4枚いっぺんに焼けるものを用意します。」「肉、たくさん焼けるなあ。ギャートルズじゃないんじゃないか(笑)。」「コンロが2つ要る。」「カレーをするのに3班でするんじゃろ。班から1人だけ燻製責任者を選んで来させてほしい。」「調理を平行でするのか。どうするの。整理しよう。去年はテントの方に問題があって・・・。」「テント設営のプロが来るので、まあ何とかできそう。」「調理の分担を整理しておいた方がよい。」「アレルギーとかだいじょうぶ?」「エビ、カニ・・・。シーフードは確認が必要です。」

## ■肝試し・花火・ゲーム

「肝試しのスタートはキャンプ場でなくて、車止めたところでいいんじゃないかな?」「肝試し、何かとってくるようにする?」「次の日食べるフルーツにしたら?(笑)」「くだもの食べるから引換券を取りに行くかな?」「スイカ券」「大人も行くん?」「大人も行ったらだれがおどかさん?(笑)」「わたし、コンニャクとか持って行こうかな?(笑)」「雨のときは?」「ニュースポーツ。町の体育協会」「ふれあいゲームなんかもいいかも。」「こわい話!」「稲川淳二みたいなの?(笑)」「小中学生なので21:00には寝ると・・・。」「お楽しみとかあった方がいい?」「花火はしてもよい。」「きもだめし・・・1時間半は持たない・・・。」「まだ、明るいから、きもだめし、こわくない・・・。」「花火見えない・・・(笑)」「じゃあ、シャワー先にする?」「それがいい。」「プールは入らない。目的があるので、プールには入りませんよ。『家族でできることは家族で行ってくださいね』ということなので。」「思いっきり遊んでくださいね。」「ボールとかは?」「広場がある。」

## ■朝食・目標づくり

「ラジオ体操は?」「スマホで流す。」「朝食は防災のナイロン袋ごはんを食べます。」「飯盒炊さんよりおいしいよ?」「へえ。」「社会福祉協議会で売ってって・・・。」「40分くらいゆでるんよ。」「最大限水を少なくしてご飯を食べようと・・・。」「おもしろそうじゃな・・・。」「あとはみそ汁と野菜サラダ・・・。きゅうり持って行ってかじる?」「みそ汁の具は?とうふだけ入れましようみたいなの?」「冷蔵庫に入れるようなものはもって行かない。」「前日に塩もみする?」「夏という感じがすると思う。」「なすときゅうり持ってこれる人は言って・・・。」「ぼく、あてがあるんじゃないけど・・・。」「軽トラ出そうか?」「キャンプでやりたい目標を1人1人書く。どうですか。みなさん。」「いいと思います。」「やりきりカード」「今回は大人も書くようにしようや。」「子どもも大人も言うし、みたいなの・・・。」「虫除けスプレー、いいの知っとるよ?」「じゃあ虫担当こうもとく〜ん。」「言いながらそう思った・・・(笑)」「肉持ってきてもらおうか?飯田さんのネットワークで(笑)。」「氷要るなあ。ペットボトルの2ℓに水を入れて凍らして持ってくる。」「OOに持ってきてもらおうかな?鮮魚店。」

2時間の協議も盛り上がりつつあっという間に感じられた。みなさん協力的なので話が建設的に進むからだ。子どもも大人も楽しめるキャンプになりそうである。

## 旭小学校ボランティア連絡会

- 目的 情報交換、めざす子ども像の共有を行い、よりよい学校支援につなげる。
- 主催 旭小学校支援地域本部
- 対象 旭小学校区地域コーディネーター、ボランティア
- 場所 美咲町立旭小学校 ボランティアルーム（図書室）
- 日時 10月28日（金）10：00～12：00（学期1回）
- 内容 情報交換、めざす子ども像の共有
- 当日の活動の様子

旭小学校ボランティア連絡会を1学期に1回開いている。行事などのタイミングをみて、飯田さんが日程を調整する。

それぞれのボランティアが参加して行ったこととそのときに感じたこと、改善点などの情報交換を行うのが目的である。その中で子どもたちを感じることにめざす子ども像の共有も図っている。

場所は図書室。図書室の1コーナーがボランティア室である。立派なボランティアルームの看板が掲げられている。ボランティアの手作りで予算はほぼかかっていないようだ。毎月発行のコーディネーターだよりも掲示されている。

旭小学校の学校支援ボランティアは41名（10月時点）で、本日参加のボランティアは飯田さんの他に6名。学校との連携も密で、展示スペースのボランティア活動の掲示は校長先生が行っている。

児童とボランティアが関わる一人一鉢菊づくりの菊を観賞した後、ボランティア連絡会を始めた。「毎年の菊もきれいに咲いてきましたね。菊づくりのなんばさんにぜひ弟子入りしてください（笑）。一番弟子はこちらにおられますので。」と楽しく会が始まる。以下に主なやりとりを掲載する（抜粋）。

まず、飯田さんから情報提供。中国からきた児童・生徒のための通訳ボランティアについての経緯の説明。「転校生も手を振ったらちゃんと手を振ってくれるよ。」「通訳ボランティアも積極的にかかわってくれるのがすごいね。」

今後の予定として、11月発表会・音楽会・鑑賞会について紹介。

「町内でも知らんことあるんな。聞いて聞いて（笑）。」と楽しい会話である。

「4月からの振り返りをしましょう。やったこと紹介してもらおうかな。ちょっとジマンしてもらおうかな。」と一人ずつ、参加したボランティア活動の内容と感想等を話していく。

「楽しくやらせてもらってます。先輩が菊を作るのをくわしく教えてくれました（笑）。」「5年6年家庭科エプロンナップサックづくり、秋探し、菊作り・・・。菊作りはさし木するところからやりました。運動会のあさひ音頭は、初め全くわからなくて、子どもから教えてもらって楽しくさせてもらいました。よかったです。はい。」

「子どもたちに教えてもらうということは、ボランティアに対して引いてない、普通に接しているということですよな。」「来年はあさひ音頭、歌詞を聞きながら踊ってみてください。あさひの名所・旧跡が出てきますので。」「へえ。あさひの人が作った?」「もちろん。」「へえ。」「聞いて、聞いて。語らんといけん（笑）。」「6年の今度のバスツアー、ボラも行きたいね。ボラも知らんことあるんじゃろ?バスガイドもせんといけん（笑）?ボラも子どもに語らんといけん。地域のこと知らんといけん。」

「読み聞かせ、壁画、紙芝居。紙芝居は石田先生に教えていただきました。読み聞かせは大きい声で返事してくれたんで子どもたちに『今日はいいいお返事ができました。』と言いました。読み聞かせはボラが入っているからといって緊張することもなく、年を経ることに子どもたちから話しかけてくれる。『そうたくんのお母さん』じゃなくて、『石原さん』と呼んでくれる。お母さんの延長じゃなくて、『ボラをしている!』という気持ちになる。」「それ、私もです。」



## 旭小学校ボランティア連絡会

「のびサタとか親にも参加してほしいと思う。今は会議に出る人が限られているので、出てくる案も限られてくる。毎回でなくていい。1日会議に出るだけでもポンと言ったことがいい方向になることがある。」

「校長先生教頭先生も参加されるので、学校の様子もよくわかる。ありがたい。」

現在子どもが小学校と直接かわり合えない人も実行委員会に来ている。ボランティア同士でも初めて会う人もいる。おじいちゃんやおばあちゃんの名前を言うと『ああ、あそこの。』とわかる。ボランティアの活動を通じて、地域のつながりづくりにもなっている。

「印刷・折り込みポラをしています。コーディネーターだよりの印刷もしています。道徳の紙芝居の絵を描かせてもらいました。岸田吟香。あさひ音頭にも入っています。女優の岸田今日子（故人）もこの末裔みたいです。」

岸田吟香の紙芝居をみなさんに披露する。

「岸田吟香について意味あること。すごい。」

地域の人が地域のことで知らないことも当然ある。ボランティアの活動を通して、地域の人の学びの場にもなっている。岸田吟香の業績について知る。

「たまごかけごはんが広まっている。これは岸田吟香が忙しくて食べる時間がないことから始まったと言われています。」「へえ。」「11月この紙芝居を使って中央中でブックトークをします。美咲中央には『ほんだますじろう』もいます。」「岸田吟香はアクティブに動いているところがすごい。」「アイデアいっぱいらしいよ。」「地域から出た偉人でそういう人の話を聞かせたい。」「この紙芝居は小学校にずっと残って子どもたちが聞けるので。」「すごい、すごい。」「また、依頼があればみなさんご協力お願いします。」

この後、旭学区のめざす子ども像について共有を行った。

「ここで、旭学区の子どもたちにどんな子どもになってほしいか、確認をしておきたいと思います。どうですか？」「旭小の子どもはちっちゃいときからなかよしです。大きくなって、旭から出たときにコミュニケーションができるようになってほしい。大人になってコミュニケーションがとりずらいと、つらい。引きこもりとか・・・。やさしくて、いろんな人とコミュニケーションができるようになってほしい。」

「今、三世代で暮らしている人もいるけど、すべて個人個人で活動しがちで、地域が助け合って協力して生活していることをわかってもらいたい。いろいろな人に助けられて大きくなっている。子どもたちが自分も大きくなってきてもらったことを自分が大人になって自分の次の世代に還元してもらいたいと思いながら活動しています。」

「わたしたちに何ができますか？」「年が上の人と関わりが多いが、こんな活動を若い人若い人につなげていってほしい。みんなに返す。順送り。いい環境で回っていけるように。」

「ボランティアとは『ありがとう』を自分が返せるようにする活動。自分がもらっている『ありがとう』を次の人に返してあげられるように。つながって行って・・・切れ間なく。」

最後に今後の予定の確認。「11月の発表会、ぜひ見に来ましょう。」「12月マラソン大会のポラ募集。マラソンコースの各コーナーに立って、安全や進路を示したり応援したりするボランティアを募集します。マラソン大会の試し走りのボランティアも募集します。」いろいろな調整を行っている。「12月ののびサタ、石田さん講師で来ない？絵手紙の講師・・・」と続いていった。

こんなに楽しく真剣に一生懸命しているボランティア連絡会であった。



# 美咲町地域コーディネーター連絡会

- 目的 地域コーディネーター同士による情報交換を行うことを通して、美咲町内の活動について知り、必要に応じて自分の実践に取り入れる。日ごろ気になることがあれば相談し、よりよい実践につなげる。
- 主催 美咲町地域コーディネーター連絡会
- 対象 美咲町内地域コーディネーター、町生涯学習課職員
- 日時 10月7日（金）10：00～13：00（昼食含む）  
（学期に1回開催）
- 場所 美咲町立旭小学校
- 当日の活動の様子



今年度1回目の連絡会は6月2日。本日は2回目である。真剣な場面あり、笑いの場面ありでとにかく楽しい会である。まず初めに美咲町教育委員会生涯学習課小室課長補佐の行政説明からスタートした。予算・会場費などについて質疑あり。平成29年度の地域学校協働活動の概要についても共有が図られた。

各地域コーディネーターがそれぞれ順に実践報告していく。「11月2日柵原東19：00～親プロあるから来てね。応援旗持って（笑）。」などと楽しい雰囲気が進んでいく。飯田さんが司会で主な内容は以下の通り（抜粋）。

## ■A学区地域コーディネーター

季節感のある壁面飾りについて。「今ハロウィン用に図書室の壁面にミッキーマウスがほうきにのっているかざりを掲示しています。赤ずきんちゃんみたいなマントを着せて、前にUSJ、後ろがディズニーランドでちっちゃい子どもたちがよろこんでくれて人気の的です。」掲示はタイムリーであることが大切なので、臨場感のあるいい情報であると思った。「じゃあ私も何か子どもが喜び楽しい掲示にしようかな」とつながる。

次はコーディネーターが子どもの気持ちを大切にしている話。

ある日のできごと。その地域コーディネーターは総合的な学習の時間に学校にも行っている。その子は放課後子ども教室の寺子屋のときに「総合の勉強がんばったじゃろ？お母さんに言っておいてよ？」と言ったそうだ。「普段からしかられる子が多い子どもだからその子はほめてほしい。」そして、コーディネーターはその子の言ったとおりにその親に伝えた。「帰りの車の中でその子はお母さんにきっとほめてもらっていると思う。」また別の子の話。コーディネーターのとなりにこそっと来て、「弟また入院したんじゃ。」とぼそっと話してくる。「家の人はいそがしさにかまけて話が聴けないし、子どももいろんなことを察して話ができなかったりすることもよくあると思うんです。みんなそうですよね？自分の気持ちが欲したときにコーディネーターに話したりして子どもたちは彼らなりに上手に補っているのだろうなと・・家の中でできなかつたら外でやっているのだろうな・・。」コーディネーターがひとしきり聴いてやることもあるそうだ。この地域コーディネーターが子どもの気持ちを両手ですくい取るように大切にしていることがとてもよく伝わってきた。「子どもの中で何か気になることがあるとき、どっか聞いてほしいというかなうめをしてほしいというのはあると思う。テレビドラマの話を通してなかよくなることもある。子どもは学校で先生と案外ゆったり話できない。雑談の大切さをしみじみ感じる・・。」と。

## ■B学区地域コーディネーター

地域連携担当者との連携について。「校長・教頭・地域連携担当者のだれかが異動すると定着しにくくなることもあるので、ふだんから環境を整えなくては。地域連携担当者が勉強会に来てくれるかどうかでその先生の熱意が分かる。地域連携の先生が担任を持っていると授業があるので、話ができないことが多い。地域コーディネーターからボランティアに連絡が行くように、依頼の流れを学校と確認の上進められるといいなと思っている。この地区はもともと地域まるごとみんなでやるぞという地区でありがたい。」

## ■C学区地域コーディネーター

「仮説実験・オカリナ・キーボード演奏・パステルアートでしおり・図書館・バイオリンとキーボード・作陽大学

### コーディネーター機能 事例③

学生グループボラ・英語・習字・生徒会を巻き込んだ七夕かざり着付け・図書委員・平和への祈り・新執行部・菊作り・ブックトーク4回シリーズ・学習支援・俳句。飯田さんも俳句の授業を山田元校長先生とともに行った。子どもたちいい句ができた。ある子どもが「飯田さんに『やばかった』のフレーズ褒めてもらえてうれしかった〜。」と言っていた。」飯田さん「みなさん、素晴らしい取組をされていますので、これからキャッチフレーズつけて行こ（笑）。それでは『堅実な』D学区。」

#### ■D学区地域コーディネーター

「ボラ登録3名。順調でした。安全見守り隊。地域での問題が起こりそうになったが、みんなで相談しました。情報を得て上手に対処することができました。いろいろな面で活性化しています。さつまいも収穫や稲刈りはボランティアは台風や雨でなかなかできないけど、今日午後話をします。中学生職場体験よく動いてくれた。たんぼみたいで雨がふるとたいへんでした。地域連携担当の先生にいつでも連絡できた。ありがたい。」飯田さん「それでは、『より児童に密着した活動をされている』E学区。」

#### ■E学区地域コーディネーター

「去年いろいろ話を聞いてくださってスムーズにできました。リコーダーの指が違う子どもがいるのを教えるボランティアをしました。よかったです。地域連携の先生を通してお願いをしてくださね。1年間の教訓が生かされたな。地域連携の先生を通してくださいねと言われて昔遊び・おかざり。地域の人が少し少なかったのでボラに話がきて。ネットワークを兼ね備えた人も地区にはいます。」

#### ■F学区地域コーディネーター

「コーディネーターだより・のびサタだより全戸配布。学校職員の写真も貼っている。先生を名前で呼びたいから。2年道徳紙芝居「岸田吟香」作りの取組を報告。「へえ、すごいですね〜。すごい郷土愛。鑑賞会に呼ぼうかな。ブックトークもできそう。」「人物像は知られてないもんね。」「液体目薬・盲学校に関わりある人？えっ知らなかった。へえ。中央中もブックトークしたいです。へえ〜っ、予約して帰ろう。いい情報交換だな。飯田さんの語りでぜひ。後で交渉させてください（後日実際にブックトークを行った）。あー素晴らしい情報。今日来てよかった。こんなCN連絡会あるといいな。」

「2学期から中国から転校生。日本語通訳支援ボラが必要になりました。8月から準備してきた。町教育委員会・小中学校と連携。現在ボラとして入っています。NPOルート・社会福祉協議会ルート・コーディネータールートの3つのルートで探しました。つながりを使っていろんな方向に声をかけてあたっていった。いろんなところとつないでいけば情報は入る。これからはこんなボラもニーズがあるかもしれない。」

「キャンドルナイト情報交換。小学生リーダー先進地視察として柵原のキャンドルを見に行った。」

「地域連携担当の先生とともうまく連携とれている。地域の人もいい方ばかりなので助かっています。大きな声で言っとこ（笑）。いい方ばかりなので助かっています（笑）。図書館にもとにかくいろいろなみなさんに動いてもらっている。学校に来られていない子どもの自立についての活動もしている。放課後子ども教室ではお迎えに保護者に来てもらっている。そして、保護者に伝えたいことは伝える。面と向かって学習の様子や体調のことについて保護者にできていないことだけじゃなくて、子どもができていることもちゃんと伝えている。CNさんに会えるなら行こうとか思ってもらえたらいいな。受け皿。居場所になればいいなと思っている。子どもたちだけでなく親もあってよかったなと思ってもらえるように。」「車いす2台、寄贈されました。」

#### ●全体を通して

めざす子ども像についての話では、「主体性のある子」「積極性のある子」「目標を立てて課題をやりきる子」をめざしたい。大人の側からは「待てる大人づくり」をしていきたいということだった。

その後昼食をとる中で「みんなでコーディネーターの視察に行きたいね。」という話も。ノリがいいので、一つの会合があると次へのステップ・方向性が出る感じである。飯田さんの発言をきっかけにしてアイデアが次々と出てくる。コーディネーターとは「道筋をつくる人」だとつくづく感じた。

# 多様な活動

## 学校支援

- 学習支援  
(調理実習・ミシン縫い・クラブ活動指導補助・本読み聞かせ・水泳見守り指導補助・包丁とぎ(家庭科室・給食室)・ミシン調整・昔遊び集会・地域学習(歴史)講師等)
- 学校行事支援  
(遠足・1年生を迎える会安全見守り補助・校外学習安全見守り・体力テスト補助・菊いっぱい一人一鉢活動・運動会踊り指導・マラソン大会安全見守り&試走安全補助・運動会補助等)
- 環境整備支援  
(図書室整備・図書登録・学校だより・コーディネーターだより等の印刷・みさき広報誌へのたより折り込み・樹木の剪定・岩石標示・図書室オブジェ等)



## 放課後支援

- 放課後子ども教室「寺子屋あさひ」として、学習習慣の定着を目指し、地域の子どもたちに学習の場を提供、ボランティアの大人たちのサポートにより、自主的に学ぶ意欲を養う活動  
地域の子どもは地域みんなで育てていこうと、子どもの居場所づくり(子どもと大人が交流し、様々な体験活動を行うこと)を目的に保護者が中心となって地域の方にも呼びかけ、のびのびサタデー実行委員会を立ち上げ、活動を始めた。



土曜日  
等支援  
(夏休み等  
含む)

- NPO法人ファミリーリングあゆむ  
(ウォーキング大会・トレッキング大会・マラソン大会・ふれあい音楽コンサート・世代間交流企画・読書推進活動・工作教室・絵本の読み聞かせ・人形劇&影絵劇公演・音楽遊び等)
- のびのびサタデー  
(料理教室・キャンプ体験・防災キャンプ体験・防災グッズ(新聞紙スリッパ・紙マスク)づくり・魚釣り(ホンモロコ)体験・海水浴体験・オリエンテーリング・トレッキング・春・秋のウォーキング・音楽で国際交流(ベトナム等)・お餅つき体験・一日消防士体験・手作り科学工作・パソコン教室・一休さん体験(一日お寺体験)・工作教室・昔遊び体験・スキー教室・ニュースポーツ・防犯学習(美咲警察署)等)



家庭教  
育支援

- 親育ち応援学習プログラム(親プロ)・子育て支援講演・子育て教育講座・人権教育講座・ボランティア(全般)講座
- みさきおやこひろば「ほっと・るーむ」  
就学前の子ども・親子を対象にした講座・イベント



子どもた  
ちの自立  
更正支援

- 不登校の子どもたち及びその保護者の支援、発達障害児及びその保護者の支援  
学校や保健師他関係機関と連絡を取りながら活動を行っている。

# 道徳教材・紙芝居作り「岸田吟香」

- 目的 2年担任の先生からの依頼により、旭学区出身の岸田吟香に関する道徳教材紙芝居作りを行う。
- 主催 美咲町立旭小学校支援地域本部
- 対象 美咲町立旭小学校支援地域本部ボランティア
- 場所 美咲町立旭小学校
- 日時 9月7日(水)9:00~
- 内容 道徳紙芝居教材作成
- 当日の活動の様子

紙芝居にどんな絵を描くか打ち合わせをする。飯田さんと美咲町立旭小学校支援地域本部ボランティアの石田さん。

これまでの経緯を振り返ってみる。

まず、旭小学校2年担任である藤原先生が道徳で旭学区出身の岸田吟香に関する授業をしたいと考えた。岸田吟香は岸田劉生第4子で盲あ学校・液体目薬・和英英和辞典・日本語で新聞を翻訳・横浜定期航路・水の製造販売等を行った郷土出身の偉人である。最近では「たまごかけごはん」で売り出し中である。道徳の授業のためには2年生の発達段階に適している教材を活用する必要がある。しかし、岸田吟香に関する教材は旧旭町発行の90ページある岸田吟香伝という本しかなかった。藤原先生は紙芝居が活用できないかと考えたが、岸田吟香に関する紙芝居はなかった。そこで、岸田吟香に関する紙芝居作りについて飯田さんに相談した。困ったときに頼みやすいのが飯田さん。6年担任のときにも地域のガイドを頼むときにご自身でやってくださったり「声かけてみるわあ。」とコーディネートしてくださった実績がある。いつも学校に足を運んでくださる。バイタリティあるし、喜んでしてくださる。飯田さんは先生にとっても頼りにされる存在なのである。飯田さんは「いい人材バンク」とも言われる豊富な人材活用が得意である。自治公民館で高齢者の詐欺防止紙芝居を手作りで作った経験がある石田さんに相談して快く引き受けてもらった。

紙芝居作りの流れは、次のとおりである。藤原先生が授業の構想に合わせて紙芝居の8場面を決める。読む文章も先生が書く。飯田さんと石田さんが8つの場面の絵をどんな感じにするか相談する。石田さんが下書きを行う。藤原先生にチェックしてもらい、GOサインが出たら、石田さんと他のボランティアさんで彩色を行うというものである。飯田さんと石田さんで打合せ。「紙芝居なので文字はいらぬ。小学生が見るから色彩豊かな感じで、赤ちゃんが寝ている場面だったらふとんを想像して描く。」「何も無いところからアイデア発想して岸田吟香が作った盲あ学校や液体目薬。だれかのために、自分が傷ついたときにそれをもとに人に役立つことを考えて行動するというのがテーマ。それにそった絵にすること。広いところに出る。勉強することも大切にしたい。」

どんな場面をどんなふうに描くか相談する。もとにしているのは平成8年旧旭町発行の『岸田吟香伝』。「吟香は絶対本は読んでいました。業績3つくらい描いて、最後は『2年生のみんなもできることあるよね。』と・・・表紙入ると8枚になる。目が痛くなる場面、目がよくなる場面、それでも吟香は勉強はやめませんでした。」「実際に描いてみてから(笑)・・・下書き用の紙をもらってきます。」

ちょうど旭小学校図書室に勤務に来ていた旭図書館の方も相談にのっていた。旭図書館の2階には岸田吟香記念館がある。

彩色は別の日に行い、藤原先生も休み時間にその製作の様子を見に来られていた。「すばらしい紙芝居ができていますね。後は私が授業でがんばるだけです。」と意欲を高められていた。



# 通訳ボランティア

- 目的 美咲町教育委員会の依頼により、中国からの転校生のための通訳ボランティアを置くためのコーディネートを行う。
- 主催 美咲町教育委員会教育総務課
- 対象 転校生（小学生・中学生）・保護者・旭中校長教頭・旭小校長教頭・町教育委員会教育総務課片山一生指導主事・ボランティア2名・地域コーディネーター飯田さん・住民福祉課職員
- 場所 美咲町公民館旭支館（旭町民センター）
- 日時 9月21日（水）9：30～11：30（4回目）
- 内容 中国からの転校生のための通訳ボランティアの打ち合わせ
- 当日の活動の様子



中国からの転入生を受け入れるに当たり、町教育委員会片山指導主事は最初から飯田さんに通訳ボランティアについて相談した。いろいろさがした上で困ったから飯田さんに相談したのではなく、最初から相談した。常時入ってくれる人、地元密着で子どものそばにいてくれる人を確保したいと思っていたからで、それには地域のことをよく知る信頼のある飯田さんだった。

飯田さんは、NPOルート・社会福祉協議会ルート・コーディネータールートという3つのルートによって、3人の通訳ボランティアを確保した。

この日の打合せは実際の指導についてであった。スマホでの変換ソフトで日本語と中国語の音声変換の使い方も練習していた。

中学校の教頭先生も片山指導主事も「飯田さんには助かっています。飯田さんの人脈のおかげなんです。対応が早い。飯田さんほんとに早かった。コーディネート機能を発揮した。」と語った。

中国語が話せる通訳ボランティアの片山順さんは子ども2人がどのくらいできるか、小学生の方は小さい「や」「ゆ」「よ」の表記など、中学生の方はカタカナの練習などの学習をしてもらって様子を見ている。

入国時に最初に担当した旭総合支所住民福祉課の職員も来ていた。通学バスの座席についても話す。みんなで2人のことを思い、より暮らしやすいようにと考えての行動だった。みんなで「乗り降りしやすい」「友達の配慮」、座席を一つ後ろにするかどうかさえ、細かい配慮で話し合っていた。「ここをずらして、ここここを入れ替える?」「ここここを替えて、ここここは・・・」

中学校でボランティア用テキスト2冊必要になる。「もう1冊ボランティアの先生用のものがあってよい。」その場で中学校の小林校長が学校に連絡確認。「OKです」早い。素晴らしい連携。小林校長「できることはします。」すごくいい雰囲気を感じる。片山指導主事は小学校の宮川校長とも話す。「テキスト、小学校で買ってくれませんか」宮川校長その場で即決。「すぐ買います」素晴らしい。ここにいる人すべてが子どもたちの生活がなんとかうまくいくように全力である。この部屋が一人一人のやさしさと一生懸命さであふれている。その全員の心意気とやさしさに涙が出た。

通訳ボランティアの経験がある片山順さんはよく慣れている感じ。子どもたちの様子に心を遣いながらうまく進めていく。大原さんも慣れていこうという感じで進めている。これらの人たちが最初から完全バックアップ。学校生活の中でなにかあってもすぐによりよく対応できるような予感が今すでにある。飯田さん「いいね」の指ポーズで「まかしてください。」「飯田さんの決めポーズ出ましたね。」「飯田人材バンクじゃけん。」「片山エンジン」じゃし。「中国のネットワーク。同世代の。ないん?」飯田さん「そうじゃな。そのネットワーク作る。のびサタで動きます。」「いいですね。」飯田さんが心配して細かいことを具体的にお父さんに話しかけている。「お母さんいろんなことイメージできとん?お弁当もっていく日あるで。」計画表を指さし、「ここはお弁当の日で。月1回くらい。小学校と中学校は別の日。弁当箱買っとん?」「中学校の子は卓球に入るかも。」「卓球部?いいだ卓球クラブあるよ。」「中国語しゃべれないお父さんのために、飯田中国語講座、しようかな(笑)?大原さんも来て。」「いい雰囲気ですね」って、小林校長に言ったら「ありがたいことです。こんなにできることってなかなかないと思います。」ほんとにそうだと私も思った。これだけいい連携はなかなかできない。

# 放課後子ども教室 寺子屋あさひ

- 目的 地域の子どもは地域で育てるという発想のもと、現在の子どもたちの課題の一つである「家庭学習・自主学習の定着」や主体的に学習できる子どもたちの育成を目的とする。
- 主催 NPO法人寺子屋あさひ（町委託事業・町内4カ所）
- 対象 希望する旭小児童・旭中生徒
- 場所 美咲町公民館旭支館（旭町民センター）会議室
- 日時 9月5日 16：00～19：00  
寺子屋あさひ  
毎週月曜日・木曜日（祝日・学校休業日は休室・長期休暇中は開室）  
開室時間：16：00～19：30
- 参加費 無料：安全保険・ドリル購入など個人負担。（保護者が送迎）
- 内容 宿題や自主学習を行う。
- 当日の活動の様子

ープリントボックスに入っているものー

- 各学年ごとの各種プリント ○国語辞典・和英辞典等の辞典
- 小学校・中学校教科書 ○読書の本・絵本・塗り絵
- 漢検過去問題集・ぴったりテストなど参考書
- 活動日報 ○単位の計算早見表 ○9ます計算パズル
- 道具セット（コンパス・修正テープ・分度器・のり・赤えんぴつ等）

教室には各学年ごとに「割合の問題」等のプリントが用意されている。プリント棚は美咲町内の別の寺子屋の関係者に材料費だけで手作りで作ってもらった。趣味で木工をされている方である。頼めばついでに作ってもらえる関係づくりができています。

国語辞典・和英辞典・漢検過去問題集・ぴったりテストなど参考書も準備されており、適宜使われる。NPO法人寺子屋あさひで購入している。別の寺子屋の教室ともプリントを貸し借りしている。NPO法人の予算から地域の本屋さんで購入している。

スタッフは子どもたちの保護者等で飯田さんを含め5名、この日の小学生の参加は、1年2名・2年3名・3年3名・4年1名・5年1名・6年8名の計18名である。

子どもたちは宿題か自主学習をする。「式とその計算の順序」等のページの計算ドリルを一人一人進める。できたら、読書をしたりプリントや市販の問題集をしたりする等それぞれである。スタッフは子どもたちの学習の様子を見守り、必要な声かけをする。必要があれば、姿勢をそっと直すように声掛けしたりして促すこともある。あらかじめ保護者や学校の先生と相談してこんな感じで接してほしいという要望も聞いていて、当日はスタッフ自身の判断で支援の程度を決めている。

宿題や自主的な勉強をすることができる時間になっているだけではない。小学生異学年のコミュニケーションもできている。こんな場面があった。ある2年の女子が4年の男子に後ろを振り返りながら、「これ、見て。」とにこやかに漢字ノートを見せた。そのノートは「花丸いっぱい、担任の先生の字で「美しい（にっこりマーク）」と書いてあった。見せてもらった男子は女子に「すげえなあ。」と感心していた。女子は「ね？」ととてもうれしそうであった。

国語辞典を活用している場面もあった。子ども同士の教え合いの場ともなっている。高学年同士で「し名の「し」ってどうだった？」「こう『氏』。」と教える場面もあった。



## 多様な活動 放課後支援 事例①

時間が経ち、少しさわがしくなって「静かにしなさい。」とスタッフからちゃんと注意が入る。子どもたちは静かになる。100ます計算の〇つけをする。「〇〇ちゃん、おいしい！」とスタッフ。



プリントできたらパンチで穴をあけて閉じる。17:00になるとお迎えの時間の子どももいる。6年の女子が1年の女子をだっこしたり相談したり仲がよい様子である。読書の宿題もあるので、ここに置いてある本を読む子もいる。



参加できる時間帯になると、中学生も参加する。小学生と中学生が同時に学習する場があることも特長の一つである。この日は中学生男子3名女子1名が参加した。小中学生いっしょに勉強している。中学生が小学生に教える場面もあった。



17:30ごろには小学生は学習を終えて読書やそうじをする。1年生も自分が使ったあたりはそうじをする。ほうきで床をはき、台ふきで台をふく。



帰り際、友達のお母さんが笑顔で、「〇〇ちゃん（2年女子）、絵が上手に書けとったなあ。クジラの。夏休みの。」女子は少しはずかしそうで、うれしそうだった。子どもと友達のお母さんとのコミュニケーションの場ともなっている。こうして、子どもたちは自信を深めていくのだろう。

保護者同士のコミュニケーションにもなっている。「このあいだの〇〇くん、がんばとったなあ。すごいなあ（スポ少のソフトの話）。練習しとったら、勝てるんじゃないなあ。」「そうじゃなあ。これからはがんばっていきなあ。」

子どもたちは学習が終わると学習カードを書く。内容は日にちとできたことで、短時間で書けるよう簡単なものになっている。スタッフを書く活動日報の内容は子どもの様子・スタッフの対応・次回への引き継ぎである。

寺子屋あさひの終わり頃、飯田さんは土曜日等支援の「一日一休さん（お寺修行）体験」の打ち合わせも行っていった。全体の印象だが、気軽に来て学習して帰ろうと思える雰囲気である。スタッフに寺子屋全体の感想を聞いてみた。「教えるの、難しい。」と言われていたけど、楽しそうだった。飯田さんは「飯田さん」と固有名詞で呼ばれる。子どもたちに飯田さんの存在が浸透している。

# 放課後子ども教室 いいだ卓球クラブ

- 目的 NPO法人ファミリーリングあゆむの今年度の新たな活動として卓球を通じて子どもの健全育成・福祉の増進・特色ある地域づくりを行う。
- 主催 NPO法人ファミリーリングあゆむ
- 対象 希望する子ども・保護者・地域住民
- 場所 美咲町立旭中学校体育館
- 内容 卓球をいろいろな人と楽しむ。
- 当日の活動の様子

このいいだ卓球クラブは、NPO法人ファミリーリングあゆむの活動として、今年度新たに行われているものである。子どもの健全育成・福祉の増進・特色ある地域づくりを行うのが目的である。地域に多様な活動の場を用意し、「卓球だったら自分も行ってみようかな。」と気軽に参加してもらい、必要があれば居場所にしてほしいと飯田さんは考えている。

## ■準備 19:20

いいだマラソンクラブのユニホーム姿の飯田さん。子どもから大人まで、家族連れでの参加、個人での参加などいろいろな形があり、計19名の参加で第1回がスタートした。

この活動の環境づくりに関して美咲町は完全バックアップしている。卓球台・中学校体育館・ネットも使用できる。当初卓球台3台であったものが、2台が追加された。「運んどいたから」とのうれしい連絡が民生委員から入った。2台のうちネットはコミュニティセンターから。飯田さんが地域の人たちとの関係作りを日頃から行っているからこそ、できることである。飯田さんはいろいろな住民の人の協力をいただいている。前日いつも協力的な中学校の校長先生に「明日からですね。」と言われた。

飯田さんはなんと「いいだマラソンクラブ」「いいだトレッキングクラブ」「いいだウォーキングクラブ」「いいだバーベキュークラブ」「いいだソフトバレークラブ」も主催している。

飯田さんはテニス部の経験があるが、卓球は経験がない。飯田さん「卓球部（経験者）ばかり集まったわー。どうしょー。でも私は負けんよ（笑）？卓球部の顧問に筋はいいと言われたもん（笑）」準備のときから元気のいい声が体育館に響き渡る。参加者の中にはインターハイ出場したことがあるお父さんもいる。

準備体操班から「〇〇さんの旦那さんお願いします（笑）。」と声がかかった。

## ■実施 19:30~21:30

「いいだ卓球クラブ結成式を行いたいと思います。」「目的：卓球を通じて子どもの健全育成・福祉の増進・特色ある地域づくりを行うことを目的に活動しましょう。」「めざせ東京オリンピック！オー！（笑）」みんなで「オー（笑）！」（※この頃東京オリンピックの話題が多かった頃です。）

「楽しくやりましょう。町内の卓球大会には出場しましょうね。」

まず、部長あいさつ。参加者は旭中卒業生が多い。中学校等で卓球経験ありの人が多い。卓球未経験の人もいる。旭中1年生卓球部男子で、お父さんがインターハイ選手の人も。始まったときには見学で、様子見らしき家族もいる。卓球教室の指導員の方が今日はけがのためつえをついて来られたが、おかまいなしに初心者に教えている。初め見学していた中1のAくんも途中から卓球始めた。見学とっていても見ていたら自分もやりたいとなって参加できることもあるものである。

## 多様な活動 放課後支援 事例②

適当にペア組んで思い思いにスタート。自然な感じがいい。飯田さんは上手に仕事を割り振る。あいさつや準備体操など簡単な役割を楽しい形で割り振ることでスムーズに入れる。言われた人も背中を押された感じで恥ずかしそうな中にもうれしそうである。

飯田さんも卓球を楽しむ。「見よーて。どう？どう？うまい？」「はいっ。」「やったー」とガッツポーズ。「ちょっとかわいいさん、見た見た？」「うまい。」「うまい？やっぱり？（笑）兄弟で親子で夫婦で卓球を楽しんでいる。「飯田さんなんか？国体？」ときどき飯田さんの元気な声。大爆笑。見ていてもこちらが元気が出てくる。中学校の教頭先生も様子を見に来られた。途中から参加される方もある。

飯田さんタイミングのいいところでみんなの様子を見に行く。全体に目を配り、立っている人を卓球台のところにうながし、みんながごく自然に楽しめるように働きかけている。取り立ててじゃなくごく自然ににだからよく見えないとみのがしてしまうくらいだ。

元インターハイ選手のお父さんが皆さんに簡単にコツを教える。「やっぱ上手い人は教えるのうまいな〜。」

お母さん同士ラリーしたり休憩したりの中で話しもできるし、お父さん方もそうである。

飯田さんも楽しむ。ダブルス「いくよ？」「オウ！」強い球がとれなかったときすかさず「強い打つのなしにする！（笑）」「イエー！」「どけて！どけて！」ラリーしながら楽しい会話「飯田さんここまで（の線）で！」「いくよ！ミラクルサーブ！」飯田さん外したとき「飯田さんもう1個台があったらな（入っていたのに。）。」「よし！」「ミラクルサーブ！」「リーグ戦にみさきテレビ来月呼ぼ。」「サー！」今度卓球クラブのTシャツつくるかな。」

「よし！」ガッツポーズ。作戦タイム。「飯田さん、そこでたおれとったらじゃまじゃが（爆笑）。」「飯田さんあっちがあいたんであっちでやる？」「飯田さん早く・・・。」「指導員さんと元インターハイ選手・・・。あんだけしてもらったたら中学生強くなるよな。」「うん。旭中学校卓球部をすごい部にしよ？」中学生卓球部の生徒にインターハイ経験者のお父さんが他の家の子どもたちに教える場にもなっている。Aくんスマッシュ。指導員さんと元インターハイ選手「ナイス！」

飯田さんも楽しむ。「うまい？」「うまい？」「うん。」「美咲テレビ呼ぼ？」「美咲テレビ明日連絡しとこ。」

初め見学していた子どもたちも体操服姿でフル活動であった。ふだんとは違うであろう夫婦でのコミュニケーションができていた家族もあったようだ。

「飯田さん申込み用紙もらえる？」親子でのゲーム。母と男の子。小6の男の子、飯田さんのところに来て「飯田さん、卓球しよ？」さそいに来た。「飯田杯しよ。」中3男子「飯田さん、あとでやる？」12月ゆめさきクラブにエントリー。どんどん広がる。「クラブ内でもリーグしようかな。」

■片付け 21：30（小学生は21：00終了）

2時間びっしり練習。モップがけをみんなでする。「はい、まなぶくん片付けて。（笑）」

中3の男の子がこの卓球クラブに入るとのこと。飯田さん「よっしゃ！」ガッツポーズ。「ありがとう。じゃあまた来週！」

夏休み小学生・中学生・ふだんは知らない人と卓球を通して交流できる。家の中の人だけでなく、地域の人みんなの手をかけて子育てをしたいという希望を持っている家族もいるという。子どもが学校に行きにくい等いろいろと事情のある場合にも受け皿の場にすることも今後可能となるだろう。一般的に言ってさそってあげないと外に出にくい人がいる場合にもいいきっかけになるかもしれない。

飯田さん「お母さんたちもそれぞれ事情があってがんばっている。それをくみ取ってあげられる人になりたい。」すでに卓球等に行く時、「送ってほしい。」「いいよ。」と言える関係になっている。

統括コーディネーターの様子いろいろな形があってよい。地域によってもその形は異なることだろう。

# お話PONちゃん 影絵劇

- 目的 影絵劇の鑑賞を通して、子ども・保護者・地域住民の心情を豊かにしてもらう。
- 主催 NPO法人ファミリーリングあゆむ
- 対象 希望する子ども・保護者・地域住民
- 日時 8月6日14:00~15:00
- 場所 美咲町立旭図書館
- 内容 影絵劇の鑑賞
- 当日の活動の様子

「お話PONちゃん」という名称は「お話がポンポン出てくるように」という願いからつけられた。参加するボランティアは旭学区だけではなく、柵原等からも参加があり、美咲町全体での取り組みとなっている。

活動は、平成14年に開始し、今年度で14年目である。依頼があったところに上演に行き、定番として地域の方々に親しまれている。

本番開始の1時間前に影絵のリハーサルが始まった。会場は美咲町立旭図書館のエントランスホール。天井が高く、壁がコンクリートなので、声がよく響いてよい。

飯田さんは美咲町の図書館協議会（3図書館、旭図書館・中央図書館・柵原図書館）の会長も務めている。本日は図書館が生まれて19年の開館記念図書館祭りの行事でもある。

本日上演するのは、「大型紙芝居あひるの王さま」「影絵劇ジャックと豆の木」。

影絵の舞台セットは大がかりである。テレビでは味わえない手作り感がなんともいい。影絵に映る人形の絶妙な揺れ加減がいい。保護者にとっては懐かしい気持ちにさせてくれるのではないだろうか。

主催のNPO法人ファミリーリングあゆむの中には、

- ・アートバルーン部
- ・音楽遊び部
- ・マジック部
- ・工作部
- ・人形劇部

・読み聞かせ がある。今日のボランティアは8人で、読む人や人形を操作する人、光をあてる等の役割がある。

家族連れや一般の方々が鑑賞に訪れた。大型紙芝居と影絵劇の後には参加者も体験できる指影絵をして遊んだ。指1本は「みみず」の散歩。指2本&にぎりこぶしは「かたつむり」。指5本&5本は「かにさん」～「鳥猫、うさぎ」。

参加者は大型紙芝居と影絵劇を十分に楽しんだようであった。

ボランティアさんに活動を通しての感想を聞くと、「子どもたちに喜んでもらえるので、うれしいです。」という笑顔が返ってきた。



# 一日一休さん(お寺修行)体験

□目的 ふだん経験できないお寺修行体験をすることにより、日頃の自分の生活について振り返ることができるようにする。

□主催 のびのびサタデー実行委員会

□対象 希望する小学生

□場所 千手寺

□日時 9月10日(土)

9:00~13:00

□当日の活動の様子

うれしそうなお子様たち。小学生19名。

ボランティア7名。みんな元気でうれしそうだけど、飯田さんが一番元気。

青野高陽二十四世住職のありがたいお話。「一隅を照らす。それぞれの立場でがんばること。みんなが輝くと幸せな世の中ができる。忘己利他。自分さえよければいいという人はだめ。困っている人を助ける。」

子どもたちは様々な修行体験をがんばった。

## ■ 9:15 そうじ

境内・本堂・客殿等をとともきれいにそうじした。高学年のリーダーシップあり。

## ■ 10:00 お経

ちょっぴりたどたどしくも心のこもった声

が本堂に響いた。6年生は木魚をたたくことができた。貴重な体験である。

## ■ 10:30 座禅

住職「何も考えずに座禅をする。目が見えているか見えていないくらい。舌を口の中で上に付ける。つばを飲み込む音でも聞こえてしまうから。風の音が聞こえますか。虫の音が聞こえますか。座禅をするとふだん聞こえない音が聞こえてきます。大自然と一つになるような思いで山や川や草や木と一つになるような思いで。」みんなじっと動かないで座禅をすることができた。

## ■ 11:15 写経

みんな一文字ずつ心を込めて、集中して目の前の字に向き合った。文字をじっと見てじっくりとていねいに書いている様子が印象的だった。時間をかけて、じっくりと・・・

## ■ 12:00 昼食

ボランティア3人のお母さん方が作ったけんちん汁・ゆかり&のりのおにぎり・たくわん・揚げ出し豆腐・ししとうとかぼちゃの煮物・ぶどう&りんご&みかんのデザート・お茶という精進料理。

「お寺では食事も修行。音をたてずに食べます。命をいただくということで最後まで大事に食べる。つくってください保護者のみなさまに感謝して食べる。」全員一言もしゃべらず、音を立てず最後まで食べた。

## ■ 13:00 修了証

修了証が一人一人に住職から手渡された。「日々の活動をきちっときっちとする。えらそうな気持ちではなく、感謝の気持ちで生活していきましょう。困ったことがあったら、寺に来てくださいね。」

●感想 1年男子「お寺来たの初めて。一番そうじが楽しかった。窓ふきや廊下ふいたの。また来たい。」

1年女子「楽しかったところは窓ふき。難しかったところは音を立てずにたくわんとかを食べるところ。」



# 親育ち応援学習プログラム(親プロ)

□目的 小学生を子にもつ保護者が、親育ち応援学習プログラムを通して、子どもとの接し方について学び合うことができるようにする。

□主催 美咲町立旭小学校学級PTA第1・3学年

□対象 美咲町立旭小学校学級PTA第1・3学年希望者

□場所 三休公園民話館(美咲町)

□日時 10月22日(土) 10:00~11:45

□内容 学童期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム  
ふりかえろう・・・子どもとの接し方

□当日の活動の様子



会場は1996年オープンの「民話の館」。温かい雰囲気ですスタートした。

本日のプログラムは岡山県地域家庭教育推進協議会・岡山県教育委員会が作成した「親育ち応援学習プログラム」のうち、学童期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム「Ⅲ-3ふりかえろう・・・子どもとの接し方」である。参加者全員親プロをするのは初めてであった。

飯田さんが「日頃思っていること自分の気持ちを話したり、共有していきましょう。」とプログラムに沿ってファシリテーターとして進めていく。

このプログラムでは参加者が役割演技を行い、春男くんの気持ちを考えていった。現在の状況から考えたり、日々自身の経験をたどったりして話し合う。飯田さんのファシリテーションによって、お母さん方の主体的な発言・率直なつぶやきが聞かれた。

「お母さんは元気づけたかった?」「お母さんはそのときどんな気持ちだったんだろ?」

「お母さんはがんばってほしいという気持ちももっていた・・・?」

「この場面は春男にとってきつい場面ですよ?」「春男くんには受けとめるだけの状況があるのかな・・・?」

「『やっぱり自分に似たのね』はひっかかる・・・。どっかで春男をどっかで下に見ている。」

「3回まではいいけど、その後はしかることにしている。」

自分だったらどれにあてはまるかについて考える場面では、自分の経験をもとにして現在の状況と照らし合わせながらそれぞれが考えを深めていった。

「みんなの意見を聴いてたら自分の意見も変わってくるなあ。」「小さい時、倉に入れようかと言われた。」

「大人でもあるもん。」「大人同士がしょうるのに。子どももしてしまう。」「くわしいな。」

「もう言われるのに慣れてしまっている。今は言われないとやらない。」「いじめた側は忘れるけど、いじめを受けた子どもはいつまでも覚えている。」

まとめとして、子どもの人権について話す。「子どももちっちゃくても一人の人間です。」「子どもを一人の人間としてあつかっていますか。」「子どもを信じてということばも出ました。」

締めくくりは、飯田さんがいつも最後に話すことにしている「6項目の大切にしたいこと」であった。



- ①いっしょに遊ぶ・行動する・・・「子どもと同じ時間を共有する」
- ②いっしょ話す・語る・・・「子どもの声を聴く」
- ③いっしょに悩む・考える・・・「一人じゃないよというサインを伝える」
- ④子どもの居場所役割を作る・・・「親の役割・子どもの役割」
- ⑤「普段の生活」を大人が子どもに見せる・「多くの人に関わって生活が成り立っていると感じる」
- ⑥大人が約束を守る・嘘をつかない・・・「子どもに言った約束はどんな状況になったとしても絶対守ること」  
「子どもに尊敬される大人・親になる」  
「子どもの目標になる大人の姿であり続けること」

## 多様な活動 家庭教育支援 事例①

参加者の方々の記述内容は以下の通り。

「役をしてどんなことを感じましたか。」

●ふだんから子ども同士でルールを決めてかわりあえるといいけど、親が見守るでなく口をはさむとどちらかをがまんさせるようになる。そのフォローが何かできるかなあ。

●お母さんもお兄ちゃんばかりしかるのではなく、お兄ちゃんの見聞も聞いてあげてほしい。

●最後に「しかたない・・・」と代わってあげるのがやさしいと思った。実際、代わってあげられず言い合いになると思う。毎回「お兄ちゃん・・・」と言われるのはつらいかなと思う。

●お兄ちゃんにばかり言いたくはないが、どうしても早く解決させるためには、お兄ちゃんに強く言ってがまんさせてしまうんだよな・・・ ●お兄ちゃんだけを一方的にしかっている感じ。●理不尽。なんか少し嫌な気分。

●お母さんがお兄ちゃん（春男くん）の話を全く聞いてあげていなくて、春男くんがかわいそうだと思います。



「この時の春男の気持ちは・・・」

●どーせ真由美の方がすごいんじやろ。ぼくだってがんばるとんのに。

●誠くんちょっとキライ。真由美もちょっとキライ。ごはんもおいしくない。

●真由美はすごいなあ。すごすぎてぼくはほめてもらえないじゃないか。

●つらくて逃げる。なんでくらべるの？ぼくはダメなのかな？？真由美キライ。ムカつく。皆とご飯食べるの嫌だな・・・ ●もう聞きたくない。早くどこか行こう。どうせぼくはできないよ。

●ぼくもがんばってることあるのに・・・：ぼくのこと何もしない。いつも真由美のことばかり・・・。またぼくだけ。

●自分は100点はとってないけど、がんばってもほめてもらえない。お母さんは自分のこと嫌いなの？ぼくだって一生懸命やってるよ。●どうして他の人と比べるの？

●またボクだけ・・・。早くこの場から離れたい。なんでいつも比べるの？（お母さんがつめたすぎ。言葉に気をつけないと逆効果になってしまう。）

「これから、気を付けようと思ったことを一つ書きましょう。」

●それぞれの特性を見極めるためには1人1人をよく見る、考えることが大切だと思った。

●つい他のことや時間に追われるから反省(〜) ●とりあえず、人とあまりくравえない。

●自身では頭ごなしに「ダメ」「こうしなさい」が多いので、もっと短くメリハリをつけたいと思った。

●毎日口うるさくなってしまっているの、もう少し子どもを信じて見守りたい。（朝の準備から忘れ物等・・・）待てる大人になる。●約束は守る。うそはつかない。●兄弟の違いを見極めてしかり方を変える。

●他の子や兄弟と比べないようにして、その子のいいところを見つける。

●兄弟の間でくらべるようなことはしないようにしようと思いました。

●「この子はこうだ！」と書いていても違う言い方、接し方がいい場合があるかもしれないので、日々1人1人を見ていきたいと思いました。

全体を通しての感想

●楽しかったです、みなさんの意見が聞けて。こんな考えもあるんだと思いました。勉強になりました。

●楽しかったです。いろいろしゃべれるから。上の子1年。下の子は生まれたばかり。今後どんなふうになっていくか、他のお母さんの経験談を聞いて将来はそんな感じになっていくんだあと、ちょっとですけど、見通しがもてました。

# ーみさきおやこひろば「ほっと・るーむ」ー

## □目的

インフォーマルな社会資源の開発に向け、子育て支援に取り組む各種団体とともに、気軽に親子で訪れ、くつろげることのできる場・多様な子育て経験を耳にすることのできる場・思いや悩みを共有し関係づくりのできる場を継続的に設け、子育て家庭が孤立することを防止し、地域における子育て支援の推進を図っていく。

## □対象

就学前の児童及びその保護者（きょうだいも可）、地域住民

## □実施主体

主催：みさきおやこひろば「ほっと・るーむ」運営委員会  
（美咲町青少年健全育成連絡会・NPO法人ファミリーリングあゆむ・社会福祉法人美咲町社会福祉協議会・美咲町共同募金委員会）

後援（申請予定）：美咲町ボランティア連絡協議会・美咲町・美咲町教育委員会

協力：ワンワンクラブ・柵原乳幼児クラブ連合会

## □日時：年4回予定 時間：10：00～13：00

## □場所：柵原総合文化センター・旭保健センター・中央保健センターなど

## □内容：ワンデイカフェのようなイメージでいつ来ても帰ってもよいような、子どもは遊び学べる場所、親はくつろぎながらつながることのできる場所をつくる。

あそびの場 子どもたちが自由に遊べる場、工作などができる場をつくる。

くつろげる場・つながる場 子どもから少し離れ、ゆっくりお茶を飲みながらくつろぎ、親同士や親と支援者・支援者同士がつながれる場をつくる。

## □広報 チラシ：役場窓口に設置、各クラブ、子育て支援センター・保育園、保健師等に配布を依頼。その他関係者で配布可能なところ。

その他、オフトーク利用、社協だより（2月号）・広報みさき（2月号）へ掲載予定  
在宅児童のいる家庭にはこども課により、直接チラシを郵送していただく。

## □経費

社協負担（共同募金助成金）

在宅児童の家庭への通信運搬費はこども課より拠出いただく。

## □実施の経緯

きっかけ：医療や生活上の公的な子育て支援の充実が美咲町でも進められている一方、家族構造の変化や地域での関係のあり方の変容などから子育ての不安を気軽に質問したり相談したりできる相手が身近にいないことや、同じ境遇にある人と過ごせる場所がない、場所があってもそこへ入っていきえず、孤立につながる恐れがあることなど、フォーマルな社会資源だけでは解決できない様々な課題がある。全くどこかに属していない就学前の子どもや親子を対象にして、任意に動きやすく、自発的に仲間集まってやっていく場があればと考え、みさきおやこひろば「ほっと・るーむ」をつくった。



## 多様な活動 家庭教育支援 事例②

### □当日の活動の様子

「こんにちは」別の子のお母さんがにこやかに話しかける。小っちゃんの子はお母さんの足につかまる。お母さんは笑顔で、「はよう遊びんちゃい。はずかしゅうなったん？」と微笑んで会場に入っていく。

お母さん、お父さん、おばあちゃん、女の子、男の子、赤ちゃんが組み合わせは様々で、11家族、34名の参加であった。飯田さんとスタッフ3人（社会福祉協議会・子ども課・保健師）・美咲町青少年連絡会会長、総勢39名（平成28年度3月に1回目を行っている。参加は20世帯50名）。

美咲町の4カ所をまわる予定である。今日は旭地区だけでなく柵原地区からも参加があった。

お母さん同士、子ども同士、お母さんと子ども、職員とお母さん・お父さんなどの交流がわきあいあいと図られた。会話がずっと続く感じである。

おもちゃの紙箱で透明な面が3つあるもので、頭からかぶって遊ぶ。お絵かき・絵本・おにぎり軽食を食べる。わらったり泣いたりしてとても楽しそうである。おかし食べたりする場面もある。「すわって食べよ？」とだれか大人が言うとちゃんとすわって食べる子どもたち。

人数が増えすぎて急きょマットを敷き詰めて活動範囲を広げることになった。ニーズがすごくあるということはすごい。今日のイベントに他団体の担当者が来て、連携の相談をしていた。つながりが広がっている感じである。今回の図書の本は日頃連携している図書館に貸してもらったものである。

1時間少しして帰る方もいる。それぞれのニーズに合った過ごし方をしているようだ。今日は来ていなかったが、美作大学児童文化研究会と連携し、大学生にきてもらって活動をともにしている。

話し合いたいということがあればそれに対応する場と時間を設定する。思い思いに過ごす。相談したいことがあれば各種イベントの紹介も行う。イベントがあれば新しい連携の場もつながる。

同じ境遇や立場にある人と過ごせる場所・子育ての不安を気軽に質問したり相談したりできる。



# 実践事例2 社会教育主事と地域コーディネーターとの連携 継続できる安定的な体制づくり・勝央町

事業推進の歩み（抜粋）

## □放課後子ども教室

小学校2校を対象に各1教室を展開

H17～ わくわくスクール

放課後  
子ども  
教室

## □学校支援地域本部

H21～ 中学校

H22～ 小学校

各校へコーディネーターの配置。サブコーディネーターの配置  
学校運営協議会の設置

学校支援  
地域本部

## □家庭教育支援

H PTA連合会と共催で講演会

H 親育ち応援学習プログラム実施 保育園・小学校・中学校

H28～ 家庭教育支援チームによる個別家庭訪問を実施

学校運営  
協議会

家庭教育  
支援

## □土曜日等支援

H25～ 冒険遊び場づくり（プレーパーク）

H26～ 英語で遊ぼう！しょうおうキッズ

土曜日等  
支援

## □市町村におけるネットワーク構築促進事業（岡山県）

H23

## □子ども若者支援地域協議会の設置・運営モデル事業（内閣府）

H24・25

子ども若  
者支援地  
域協議会  
の設置・  
運営モデ  
ル事業

ネット  
ワーク構  
築促進事  
業

## □勝央町子ども・若者サポートネット（子ども・若者支援協議会）

H22 不登校・ひきこもり・ニートなど悩みを抱える子ども・若者を  
支援するためのネットワーク（協議会）

H23 勝央町子ども・若者サポートネット準備会」立ち上げ

H25

勝央町子  
ども・若  
者サポー  
トネット  
（子ど  
も・若  
者支  
援協議会）

## □公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム（文科省）

H25・26

公民館等  
を中心と  
した社  
会教育  
活性化  
支援プ  
ログラ  
ム  
（文科  
省）

## □不登校児・不登校傾向児の親の会「ほっこりサロン」の設立

家庭教育推進事業（家庭教育支援チーム）

不登校児・  
不登校傾  
向児の親  
の会  
「ほっこ  
りサロ  
ン」の  
設立

## □地域未来塾

H29（予定）

## □「地域のつながりづくり」実証プログラム事業

H29（予定）

地域  
未来塾

「地域の  
つなが  
りづく  
り」  
実証プ  
ログラ  
ム  
事業

# 勝央町教育委員会生涯学習課・社会教育主事の取組

## ○社会教育主事の取組

今回の調査研究で「社会教育主事と地域コーディネーターとの連携 継続できる安定的な体制づくり」というテーマで勝央町を取り上げた。前ページに掲げるように、勝央町は生涯学習に対する取組意欲が高く、様々な取組を行ってきている。それを可能にしているのは、社会教育主事の活躍である。



三戸祥恵主査は勝央町教育委員会生涯学習課勤務が8年目、社会教育主事としては5年目である。勝央町全体の生涯学習をアレンジする構想力と、それを可能にする環境作りのための情熱と細やかな配慮で次々と取り組み、成果を挙げられている。研修会に数多く参加し、「うちでも使えるか。うちではどうかな。ちょっと有効だなというところを活用しよう。」という心構えで参加するという。研修会に参加するに当たっては、必ず名刺を持っていき、いろいろな人にとにかく顔と名前を覚えてもらうという姿勢で臨む。

三戸さんは、基本的な姿勢として、教育長がやりたい柱を達成するために形にしていくのが職員であると考えている。勝央町の子どもたちのためによりよい取組を行いたいという強い思いから、教育長のリーダーシップで大きな事業に着手することも多いという。

また、三戸さんが尊敬する竹内祐三参事をはじめ生涯学習課内の連携がよく、とても働きやすい環境であるとのことである。チームとしての環境がすぐれていると事業が推進できる。

勝央町での社会教育を推進するため、様々な環境作りを行っているが、今回は統括コーディネーターの調査研究であるため、学校支援における継続できる安定的な体制づくりのテーマにしばって記述する。

### 社会教育主事による継続できる安定的な体制づくり

勝央町では学校支援の中で、継続できる安定的な体制づくりを行っている。これは三戸さんという社会教育主事のリーダーシップによる。

#### ①地域コーディネーター＋サブコーディネーターの配置

町内の小学校2校中学校1校のそれぞれに学校支援の地域コーディネーターだけでなく、サブコーディネーターを配置している。町内全体でいうとコーディネーター3人・サブコーディネーター3人・計6人での体制にしている。三戸さんはコーディネーター・サブコーディネーターという複数で行うことにより、相談しながら進められ、内容を充実させることができることをねらっている。また、中長期的にはコーディネーターの後継者育成にもつなげている。

#### ②学校の持ち回りによるコーディネーター連絡会(月1回)

平成26年度から小学校2校・中学校1校の中で、月1回定期的に学校の持ち回りによるコーディネーター連絡会を行っている。持ち回りにし、実際に3校を訪れることで、コーディネーターと学校の先生とのコミュニケーションの場を増やすとともに、各学校の子どもたちや先生、環境の様子などを実際に感じながら、各自の学校支援活動に生かすことをねらっている。

## 社会教育主事による継続できる安定的な体制づくり

月1回、月はじめにコーディネーター連絡会を行っている。

全校持ち回りで、メンバーは会場校校長・地域連携担当者・各校の地域コーディネーター・サブコーディネーター・教育委員会事務局で構成している。ここでは1月6日の「第10回学校支援地域コーディネーター連絡会」の様子を記述する。

今回の会場は勝間田小学校であった。会場につくと、サブコーディネーターの佐古さんが親切にも車の誘導やスリッパの用意をしてくださった。



連絡会では次の手順で進めていく。前月の活動報告・今月の活動予定確認・消耗品等各校の予算の使い方・質疑応答等である。コーディネーター・サブコーディネーターでにぎやかな感じ、すごく楽しいいい雰囲気である。

情報交換・質疑応答の中で、こんなやりとりがあった(抜粋)。まずは虫取りができる場所について。

「1年生の先生との打合せで虫取りについての話が出たんですけど、子どもたちが自然体でちょっと行ける場所があればいいなあということでした。学校の近くでちょっと行けるようなところ、あったらうれしいんですけど・・・。」という話がありました。虫取りに関係するの、1年生の生活科だけですか？」

「いいえ、2年生もです・・・。3年生もです。」

「公民館の前の『わくわく』で使っている、あの場所、土のところ・・・。町のものかな？」

「あそこは、いい立地ですよね・・・。」

「あそこを虫取りで使えないか、土地の所有がどうなっているか、使えるか確認してほしいです。」

「そこは教育委員会で考えておきます。ありがとうございます。」

地域をよく知るコーディネーターだからこそそのやりとりである。

次はコーディネーターの本質にも関わる内容である。

「今の私のコーディネーターとしてのボランティアへの関わり方がいいのかどうかちょっと悩んでいます。どういうことかということ、活動当日に先生とボランティアでやるのですが、コーディネーターの私も同行しています。このスタイルを続けるべきなのかどうか・・・。ボラと先生がガッチリつながれるチャンスなのに、コーディネーターがそのチャンスをとってしまっている感じになっているんじゃないかと心配しています・・・。」

「コーディネーターが中をとりもつ感じでやらないとむずかしいのでは・・・。」

「ボランティアと先生だけだとたいへん・・・。」

「輪の中に先生とボランティアとコーディネーターがいて、コーディネーターは必要に応じて、一歩引いて、先生とボランティアがつながれるような感じにしたらいいかも・・・。」

「学校としてはコーディネーターさんが連絡調整してくださり、当日も来てくださる、今のスタイルがありがたいです。異なる学校から集まるといろいろな意見が出て、いいですね。」

「ちょっと心配していたんですけど、じゃあ、現状キープで(笑)。」

コーディネーターとボランティアと先生の間でのとても大切な話がされていて、コーディネーターが日頃感じられている深い心遣いを感じた。

コーディネーターが活動を1人で行っていることは通常よくみられることである。コーディネーター&サブコーディネーターに2人体制のメリットを聞いてみた。

●1人のときは不安がある。プレッシャーがある。自分の都合が悪いときでももう1人に任せられる。

●2人制ありがたいとつくづく思っている。負担も二分の一。

●心強い。ぶちあたったときに、違う角度からの意見が出る。人材探すとき、1人では知っている範囲が決まってしまう。2人の方が人脈の幅が大きい。住まいの地域も違うので呼びかけ範囲が広がる。

●たまに活動場所が体育館と家庭科室等かぶることがある。2人体制であるに対応できる。

●年齢差がある場合、人脈の違いがあって、呼びかけの範囲が広がる。

●仕事があるとき、「お願いします」と言える。

●自分の得意をそれぞれが生かせる。メールでの連絡担当をしたり、中学生と年齢が比較的近いので、そのメリットも生かしていると思う。

●2人体制では安心しかない。コーディネーターさんのしていることを見て勉強になる。

●男性と女性の2人の場合、得意なことが違ったりしていろいろな場面でそれぞれのよさを生かせる。

●1人でやっているとき、相談相手は先生しかいなかった。2人だと相談できる。

この6人の方たちは、学校区を越えて、都合が悪いコーディネーターさんに代わって行ったりして、助け合っているとのことである。コーディネーターとサブコーディネーターがともに活動することにより、お互いの活動の様子が見えるので、自分のスキルアップになることにも気づいた。

持ち回りによる連絡会のメリットについても聞いてみた。

●3校に行くので、みんなでちがった目で教え合い、自分の活動に生かせる。

●地域性を肌で感じられることが大きい。いいことどりを自分なりにしてみたい。自分でダイレクトに違う学校にも聞けるので、とてもスッキリする。

●学校でカラーが違う。よその先生だからこそ聞けることもある。よその先生だったらどうか聞いてみたいこともある。

●違う学校の先生と顔を合わせて雑談を交えながら話せる。雑談の中からいろんなものが生まれる。

●小学校、中学校と縦の成長の道筋がわかる。保護者目線で比べられる。

●いろいろなコーディネーターと話す機会があれば、自分の学校の振り返りもできるし、いい勉強になる。(校長)

●コーディネーター・サブコーディネーターさんに支えられていることがよくわかる。(地域連携担当者)

やりとりの内容が町内全体に及んでおり、持ち回りにすることによって思考が各学校区にとどまるのではなく、町内全体が視野に入っている印象を受けた。

町全体をアレンジし、継続できる安定的な体制をつくり、コーディネーター・サブコーディネーター・学校長・地域連携担当者等の声をていねいに拾い上げて実践に生かす、三戸さんのようなすぐれた社会教育主事の実在は貴重な財産である。まずは、社会教育主事の配置が大切である。



# 一統括コーディネーターのあり方

実践事例1・2のようなすぐれた実践は共有の財産にしたい。統括コーディネーターのあり方のためのヒントを3点について整理する。

## ①コーディネート機能

ボランティア連絡会、地域コーディネーター連絡会などが行われている。子どもについての情報交換、めざす子ども像の共有を図っている。その内容を受けて多様な活動へ反映させることができる、とても有意義なネットワークづくりである。

放課後・土曜日等支援との関連を考えると、学校との役割分担を話す場面があるといい。このような連絡会や学校運営協議会に地域コーディネーターや公民館職員（館長・主事）が入るととても相談しやすい。子どもについての情報交換、めざす子ども像の共有から公民館等での主催事業に反映しやすいからだ。

例えば、小学校第5学年で米作りを行っているとする。家庭科ではご飯とみそ汁は作るが、米に関連する発展的な学習がしたくても、総合的な学習の時間ではテーマが異なっているために実践できなかつたり、物理的な時間ととれなかつたりして実践できないとき、例えば公民館の主催事業で「世界の米料理作り」をすれば、学校とつながった内容で発展的に実践することができる。このような連携・協働は子どもの学びの流れを考えるととても大切なことであると考え。

ボランティア連絡会・地域コーディネーター連絡会では次の世代を育てる機能も関連している。統括コーディネーターと地域コーディネーターを兼ねると仕事が増える一方になってしまうので、統括コーディネーターと地域コーディネーターの仕事・役割を明確にし、整理し、一人の負担が増えないようにしたい。

このコーディネート機能は横の広がりをもたせるためのネットワークづくりを行うという点で「横のコーディネート機能」といえる。

## ②多様な活動

多様な環境を用意して、子どもたちや保護者が相談して自分に合ったものを選択して取り組めるような環境作りを行っている。この多様な活動は統括コーディネーターのあり方にとって重要な意味をもつ。

「もはや教育格差は学校で付くのではなくて、放課後・土曜日等の活動で付く」と耳にすることがある。学校教育はどこでも同じような活動が保障されているのに対して、放課後・土曜日等の活動は中学校区によって実に様々で、非常に充実したところもあれば、進んでいないところもある。多様性が大きく、差が付きやすいということを表した言葉であると考え。

また、多様な活動には、子どもの心のセーフティーネットについての機能もある。子どもにとって、学校の先生や保護者には話せなくても（学校の先生や保護者だからこそ話せないこともある）、放課後・土曜日等の支援の人には話せることもある。例えば放課後子ども教室や公民館でのボランティア活動の存在が家庭教育支援のセーフティーネットになることもある。子どもと同じように保護者としても学校や家や地域の人には話せなくても放課後の指導員や公民館職員には言えることもある。小さなことのようにだが、意義は大きいと思う。学校ではできないこと、公民館等の社会教育施設でしかできないことがある。

道徳の紙芝居作り・通訳ボランティアの調整・いいだ卓球クラブなど活動現場からいねいにすくい上げた、ニーズに的確に応えたものが多くあることは印象的である。統括コーディネーターの腕の見せ所でもあり、構想力と熱意と行動力があってこそできることである。もちろん、すべてを自分だけで行うということではなくて、人やグループに適切に活動してもらおうという活動上の工夫も必要となってくる。

## ③安定的な体制づくり

地域コーディネーターとともにサブコーディネーターを配置したり、学校の持ち回りによるコーディネーター連絡会（月1回）を設けたりして継続できる安定的な体制づくりの意義は大きいことがわかった。安定的な体制づくりがあるからこそ、活動の見直しをもち、工夫改善が行われていく。

# －岡山版統括コーディネーター像を提言－

美咲町・勝央町の実践から、統括コーディネーターの実践のためには、①コーディネート機能（横の広がりをもたせるためのネットワークづくり） ②多様な活動 ③継続できる体制づくり が大切であることがわかった。

さて、取材や検討委員会での議論を進める中で、コーディネート機能には2つあることを知った。いわば「横のコーディネート」と「縦のコーディネート」である。横のコーディネートとは、ボランティア連絡会や地域コーディネーター連絡会等の横の広がりを統括する観点からのネットワークづくりである。地域に強い・人を知っている地域コーディネーターの強みを生かせる機能である。一方、縦のコーディネートは、保幼小中高という子どもの成長の視点からのコーディネート機能である。ここは教育委員会の出番である。

これらを考慮し、岡山版の統括コーディネーター像を示す。それは、地域コーディネーターが、教育委員会との連携のもと、中学校区で横と縦の支援を行うということである。中学校区のコーディネートを行うコーディネーターのことを岡山県では「中核コーディネーター」と名付ける。市町村内をコーディネートするのが「統括コーディネーター」、中学校区内をコーディネートするのが「中核コーディネーター」である。「中核コーディネーター」は岡山県独自の名称である。

地域コーディネーターが、教育委員会の連携のもと、中学校区で横と縦の支援を行う  
横の支援・・・〇広がりのためのネットワークづくり 〇多様な活動  
縦の支援・・・〇子どもを成長の視点でとらえたコーディネート機能

## －子どもを成長の視点でとらえたコーディネート機能(〇〇連絡協議会)－

- 目的：保育園～中学校の縦の連携と情報交換、めざす子ども像の共有を図ることである。
- メンバー：保育園長・幼稚園長・小学校長・中学校長・地域コーディネーター・生涯学習（社会教育）課職員（以下可能なら）・地域連携担当者公民館職員・放課後・土曜日等支援・家庭教育支援関係者・学校教育課職員・スポーツ少年団指導員・放課後児童クラブ指導員・中学校部活動指導員等・PTA会長・高等学校長等
- 内容：活動の情報交換・子どもの様子・めざす子ども像の共有等
- 協議会のメリット：成長の視点で子どもをとらえることができる。子どもたちが現在を楽しむ活動とともに、それとは別に、将来を見越して今体験させておきたい必要な活動を幼いころから生涯学習・社会教育に組み込んでいくことができる。例えば、異年齢の様々な人たちと交流する場等。そして、それを公民館等社会教育施設での取組に生かすことができる。また、保幼小中高の情報を一括して集めることができる。家庭教育支援はもちろん、放課後・土曜日等支援での保幼小中高のすべてのニーズを聞くことができる。中高生の出番作りのためのボランティア活動にもつながる。

## 行政担当者が行うコーディネート機能(縦の支援) 生涯学習課&地域コーディネーターそれぞれの強みを生かす

子どもを成長の視点でとらえるという縦の視点でのコーディネート機能が求められる。その際、予算、市町村の中長期計画や学校教育課の計画・実態、校長・地域連携担当者等関係者の動きを知り、把握できるのは行政の担当者である。この取組はコーディネーターが調整するのは難しい。縦、つまり、子どもの成長の視点・発達・方向性は教育委員会が主導する。

保育園－幼稚園－小学校－中学校－高校、そこに地域コーディネーター（将来の中核コーディネーター）が参加する。子ども像の共有。中学校区ビジョンの共有の場。問題がないように見えて先の先までを見通した視点が必要になる。小中の時代はいいが、新しく高校進学段階になってコミュニケーションに問題ができ、苦労する事例もあると聞く。一步俯瞰してみて、異年齢の子どもとのふれあいを充実させる等12年間での子育ての視点が必要となる。中学校区がベクトルを合わせて進めていく。

必要なのは無理が生じないようにそれぞれの強みを生かした取組である。地域コーディネーターと生涯学習（社会教育）課職員の両方の機能を高めるようになることよい。現在行っている会議を上手に活用する等、一番やりやすい形がいい。全体のビジョンは行政担当者が描く。

# 中核コーディネーターの仕事チェック一覧



(参考：文部科学省 中央教育審議会「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」(答申))

連携・調整のもと地域学校協働活動を推進できるように、以下の項目のチェックをしてみてください。  
すべてしなければならないものではありませんが、取組の参考になると考えています。

## I 拡充

- 様々な活動を全体的に俯瞰して整理している。
- 既存のおかやま子ども応援事業(学校支援地域本部・地域未来塾・放課後子ども教室・土曜日教育支援事業・家庭教育支援)をベースに支援を拡充している。
- 地域学校協働活動の未実施地域において新たに取組みを開始する際に、地域学校協働本部の立ち上げやそれぞれの定着の度合いや実情に応じた、地域学校協働についての助言や先事例の提供を行っている。
- 市町村・都道府県が実施する研修・説明会等の調整を行っている。
- 地域学校協働活動未実施の地域における地域学校協働活動の取組開始の促進を行っている。
- 域内の子どもたちの成長や地域の振興・創生に向けたビジョンを掲げ、域内の住民、保護者、学校及び様々な関係機関や団体間でそれを共有しつつ、積極的に地域学校協働活動を推進している。
- 各学校区における地域学校協働活動を充実させている。
- 子どもたちに多様性のある豊かな学習や体験活動を提供している。
- 子どもたちの育成の方針、目指すべき方向性を共有している。
- 成果の共有をしている。

## II 調整・連絡・ネットワークづくり

- 地域の現状に合わせて、地域住民や様々な団体の「緩やかなネットワーク」を形成している。
- 中学校区の「中核コーディネーター・地域コーディネーター」連絡会を開いている。

- 経験豊富なコーディネーター、元校長、PTA会長、青少年団体会長など地域のボランティアリーダーのつながりをつくっている。
- 中学校区の人や団体をつないでいる。
- 学校・地域とのネットワークをつくっている。
- 各学校区の地域コーディネーターのリーダー的存在として、それぞれの地域コーディネーター間の連絡調整を行っている。
- 効果的なコーディネート活動を行っている。
- 地域の人材との連携を行っている。
- 企業との連携を行っている。
- 団体との連携を行っている。
- 大学や専門学校等との連携を行っている。
- 子育て経験者をはじめとする一層多様な人材の参画が得られるようにしている。
- 放課後・土曜日等支援や学校支援が公民館と連携している。
- 地域の人的なネットワークを広げている。
- 個別の取組を有機的に結びつけている。
- コーディネート機能を高めている。
- より多くのより幅広い層の地域住民の参画による地域学校協働活動の実施をしている。
- 中高生の参画を取り入れている。
- 就学前の子どもや親子を対象とした講座などの取組をしている。
- 中学校区の活動を把握している。
- 地域住民、保護者、企業、団体等、様々な関係者が学校、放課後・土曜日等支援、家庭教育支援、まちづくり等に参画している。
- 地域学校協働本部において地域コーディネーターと学校の地域連携担当教員との連携強化している。
- 地域学校協働本部において地域コーディネーターと学校運営協議会の委員との連携の強化をしている。

中学校区内の各学校の学校支援地域本部の組織が、立ち上げ期・充実期・拡充期のどの期か把握している。

中核コーディネーターは地域コーディネーター間の連絡調整等を主な役割とするが、各学校区における個別の地域学校協働活動に関して学校側と連絡調整を行う場合もあり、このような場合には、中核コーディネーターと、地域連携の推進を担当する教職員や学校運営協議会の委員との連携を強化していくことも重要である。

それぞれの地域や学校の特色により様々なケースがあるが、地域学校協働本部における地域コーディネーターあるいは中核コーディネーターが、学校運営協議会の委員として地域における学校支援や学校運営に関する協議に参画したり、学校運営協議会の委員が、地域学校協働本部における企画調整に携わったりするなど、それぞれの経験や考え方を、お互いの発展のために生かす人的配置の工夫をしている。

一気に会議体にするのではなく、ちょっとしたコーディネーターの普段話を発展させるというイメージをもっている。

中核コーディネーターと行政の担当者が車の両輪のようにいっしょになって進めているという感覚がある。

市町村担当者のだれが社会教育主事か知っている。

市町村担当者と報告・連絡・相談を十分にしている。

学校の地域連携担当と報告・連絡・相談を十分にしている。

多様な活動を行っている。

### Ⅲ 資質・能力の向上

講演会を行っている。

地域コーディネーターの育成・資質向上を行っている。

地域コーディネーターに対し、それぞれの経験段階等に応じた研修会・ワークショップを行っている。

地域コーディネーターの候補人材の発掘を行っている。



地域コーディネーター間の十分な情報共有を行っている。

地域コーディネーターに対する十分な研修を行っている。

地域社会と関連の深い教育改革の動向を把握している。

参画するボランティア対象の研修会を行っている。

「教育は学校の役割」といった固定化された観念から離れている。

ある程度の期間を見越したビジョンを持っている。

経験を踏まえ、各学校区の地域コーディネーターが直面する地域学校協働活動に対する適切な助言や指導を行っている。

参考となる事例の紹介を行っている。

地域学校協働活動に参画する地域住民の理解を促進するために、市町村や教育委員会が行う説明会・シンポジウムにおける地域協働学校活動の状況やモデル事例の紹介をしている。

### Ⅳ 実践のポイント

子どもの意欲を軸にしている。

多様な活動を準備している。

活動場所の確保をしている。

目標とする子どもの姿を共有している。

目指す子ども像を共有化するための場を設定している。

多様な形態による学習機会を整備している。

公民館の活用をしている。

持続的な体制づくりをしている。

きめ細かな対応をしている。

必要に応じて、ボランティアへの守秘義務や委嘱等の契約などを行っている。

参考：統括コーディネーターが求められる資質

地域コーディネーターや地域ボランティアを務めた経験があるなど、地域学校協働活動の経験が豊富であること

人材育成の能力やリーダーシップがあること

地域コーディネーターを含めた関係者等からの社会的信望が厚いこと

# 小学校との連携として、放課後・土曜日等支援(夏休み等の長期休業含む) において公民館等で実施が考えられる講座【教科・領域別】

対象：子ども ※あくまで希望者を対象にした講座です。

## ①国語

- 早口言葉アナウンス
- 音読会スピーチ
- 年齢の小さな子どものためのシリーズ  
ひらがな検定  
小さな文字「っ」の書き方教えます(長音・拗音・促音等)  
書くときの姿勢講座
- 物語を書こう
- 手紙を書こう
- 新聞を作ろう
- 詩・短歌・俳句・随筆を書こう
- 好きな本の紹介文を書こう
- 自分史を書こう
- 伝記を読んで自分の生き方について考える講座
- 昔話・神話・伝承
- 親しみやすい古文・漢文・近代以降の文語調の文章
- 漢字すべて覚えます
- ローマ字検定
- 辞書の引き方



## ②社会

- 都道府県の名前と位置をおぼえよう講座
- 世界の国旗をおぼえよう講座
- 世界の首都をおぼえよう講座
- 地図を読もう 地域の地図 世界の地図
- 身近な地域の地形, 土地利用, 公共施設などの様子
- 地域の生産や販売に携わっている人々の働き
- 地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動
- 地域の人々の安全を守るための諸活動
- 地域の発展に尽くした先人の働きについて具体的事例で理解できる講座
- 〇〇公民館ガイドマップを作ろう
- 飲料水・電気・ガスの見学調査
- 廃棄物の処理(ごみ・下水)

- 古くから残る暮らしにかかわる道具それらを使っていたころの暮らしの様子
- 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事
- 博物館・郷土資料館・民家に行こう
- 地域の人に昔道具を持ち寄ってもらい、展示しよう
- 放送・新聞
- ケーブルテレビ・地元新聞・地域版記者・コミュニティ紙
- 地域の遺跡・古墳・城跡・砦(とりで)を調査しよう
- 神話・伝承
- 地域の仏像彫刻など
- 憲法について勉強しよう
- 18才から選挙
- わかりやすい子どものための講座シリーズ 〇〇市総合基本計画を読もう
- ユニセフ・ユネスコ
- 地域産業振興センター
- 公民館を紹介する番組作り

## ③算数

※補充的学習、発展的学習

- 小数
- 分数
- 乗法(かけ算)
- 除法(わり算)
- そろばん
- 長さの単位・体積の単位・時間の単位・重さの単位・面積の単位・角の大きさの単位
- 多角形や正多角形
- 四則の混合した式や( )を用いた式
- 百分率
- 資料の平均
- 速さ
- 応用問題徹底講座
- 数学オリンピックに挑戦
- じっくり取り組むシリーズ 学力アップ講座  
基礎コース 応用コース

#### ④理科

- 風やゴムの動き
- 物と重さの関係を活用したものづくり・・・てんびんばかり
- 風やゴムの働きを活用したものづくり・・・風やゴムの力で動く自動車や風車
- 光の性質を活用したものづくり・・・平面鏡を使って物を明るくしたり暖かくしたりする装置
- 磁石の性質を活用したものづくり・・・極の働きや性質を使って動く自動車や船
- 乾電池や豆電球を使った、電気の性質を活用したものづくり・・・回路を切ったりつないだりできるスイッチや電気を通す物であるかどうかを調べるテストター
- 野草
- 身近な昆虫・ダンゴムシ
- 方位磁針を用いて方位を調べよう
- 空気や水の性質を活用したものづくり・・・空気でっぼうや水でっぼう
- 物の温まり方を活用したものづくり・・・ソーラーバルーンや体積変化を利用した温度計
- 電気の働きを活用したものづくり・・・乾電池や光電池などを用いた自動車やメリーゴーラウンド
- 星の観察会・プラネタリウム
- 振り子の運動の規則性を活用したものづくり・・・簡易メトロノーム
- 電流の働きを活用したものづくり・・・モーター、クレーン
- いろいろな花粉
- 流れる水の働き・川の観察・自然災害
- てこの規則性を活用したものづくり・・・てこやてんびんを利用したはかり
- 電気の働きを活用したものづくり・・・風力発電や蓄電器を利用した自動車化石さがし
- きれいな石さがし・礫（れき）岩・砂岩・泥岩等
- 地質ボーリングをやってみよう
- 実地踏査 ○○に行こう
- 発明工夫講座
- 紙飛行機の記録に挑戦
- 科学オリンピックに挑戦

#### ⑤生活

- 動くおもちゃを工夫して作って遊ぶ活動
- ものを水に溶かして遊ぶ活動
- 風を使って遊ぶ活動
- 自然や物を使った遊ぶ活動
- 焼きいも体験
- 整理整頓を身につける教室
- バスの乗り方教室
- 司書教諭の仕事を知ろう
- 自然の物を使って製作したおもちゃで遊ぶ活動
- 地域の店や公園などを訪問
- 汽車に乗ろう
- くつつき虫（オナモミ）で遊ぼう
- 年中行事（七夕や端午などの節句、立春や立秋などの節季、正月などの伝統行事）
- 季節の花を摘んで飾ろう
- 大きなシャボン玉を作ろう
- 凧を作ろう
- 電話のかけ方
- オリンピック選手とふれあい
- 幼稚園や保育所の年長児などとふれあう活動
- 買い物に行こう
- コマを作って遊ぶ
- 洗濯体験

#### ⑥音楽

- 公民館楽団募集・公民館バンド募集
- じっくり取り組みたい子のためのリコーダー教室
- （人気曲）の作品を吹こう教室
- の鑑賞会・蓄音機レコード
- リズム遊び・リトミック
- 中・高・大学生の吹奏楽部員に学ぼう
- 和楽器体験

#### ⑦図画工作

- 動物パズルづくり（糸のこぎりを使って）
- 地域のお気に入りの場所を描こう
- 木を使った作品づくり
- 地域にゆかりのある作家について知ろう
- アートフェスティバル 公民館美術館

- 伝統工芸品
- 我が国や諸外国の親しみのある美術などの鑑賞
- 県立美術館のアート・トラベル・トランクの活用
- 造形遊び
- はさみ・小刀を使った作品づくり
- 声優体験
- アニメ教室
- まんが教室



⑧家庭

- ぬいぐるみづくり
- 1食分の献立・フルコース：
  - (日本食編・中華編・フレンチ編・イタリア編)
- ホテルや旅館の本物のシェフ・料理長に習おう
- ゆでたりいためたりする調理
- 米飯・みそ汁
- にぎり寿司教室
- 魚のさばき方教室
- 日常着の手入れとボタン付け及び洗濯
- 整理・整頓及び清掃の仕方と工夫
- 年齢の小さな子のためのシリーズ
  - 年齢の小さな子のためのお片付け教室
  - 年齢の小さな子のための洗濯物たたみ教室
  - 年齢の小さな子のためのシューズ洗い教室
  - 年齢の小さな子のためのお皿洗い教室
  - 年齢の小さな子のためのお買い物教室
- 手縫いやミシン縫いによる製作・活用
- 物や金銭の大切さ、計画的な使い方
- 家族との触れ合いや団らんを楽しく工夫しよう
  - 家族にお茶を入れる・果物やお菓子を供する・手紙で思いを伝える・日々の感謝の気持ちを表すために手作りの品にメッセージカードを添える・家庭で新聞を発行する(感謝新聞・家族ニュース・家族日日新聞・週刊「家族」)
- 地域の名物・名菓・B級グルメを作ろう
- 手縫いやミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作
- 布を用いて製作する物を考え製作・・・ぞうきん・かばん・ランチョンマット・家族に贈る物
- 山菜料理・・・わらび・ぜんまいを採る。

- 〇〇公民館おそうじ検定
- 料理教室(高校家政科との連携)
- 動物となかよくなろう(高校畜産科との連携)
- きれいな包装のしかた ラッピング教室
- 風呂敷の使い方教室

⑨体育

- 〇〇公民館主催ギネスに挑戦シリーズ
- ニュースポーツ(レクリエーション協会との連携)
- ネイチャーゲーム
- 公民館子どもすもう教室
- 保健シリーズ けがの手当
- 仕事シリーズ
  - 看護師さんの仕事・お医者さんの仕事・歯医者さんの仕事
- 〇〇公民館〇〇部シリーズ
  - 散歩部・鮎かけ部・ダンス部・親子で行う体づくり運動部・体ほぐし運動部
- じっくり取り組むシリーズ
  - じっくり取り組みたい子のための逆上がり教室
  - じっくり取り組みたい子のための一輪車教室
  - じっくり取り組みたい子のための二重跳び教室
  - じっくり取り組みたい子のための竹馬教室
  - じっくり取り組みたい子のためのヨーヨー教室
  - じっくり取り組みたい子のための竹とんぼ教室
- リレー教室
- 特化シリーズ：バスケットボールのシュート教室(バスケットボール部員の協力)
- 特化シリーズ：バランス柔軟教室

⑩道徳

- ようこそ先輩
- 講談・落語・・・歴史の人物シリーズ
- 地域の人のお話を聞く・・・仕事シリーズ
  - 盲導犬・動物獣医さん・郷土のこと・人権の話
- 愛育委員の仕事
- 18歳19歳主権者教育

## ⑪外国語活動

- 英語でクッキング
- 英語カルタ
- 外国の料理作り
- お菓子作り
- 国際交流
- ハロウィン

## ⑫総合的な学習の時間

- 公民館主催職場体験
- 森林－環境資源－産業の学習
- ものづくり
- キャリア教育
- 食育
- 保存料って何？着色料って何？
- 安全教育
- 伝統と文化
- 特産物
- 工芸品
- 地域に古くから伝わる〇〇祭について調べよう
- 歴史や民話について調べよう
- 〇〇地域の〇〇を調べよう
- 古墳
- 温室効果を確かめる実験
- 風車をつくって発電する実験
- 環境保全にかかわる機関に見学に行ったりする活動
- 〇〇山にのぼろう
- 地域に暮らす外国の人に学ぼう
- 情報化の進展と日常生活や消費行動の変化
- 身近な自然環境とそこに起きている環境問題
- 自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題
- 身の回りの高齢者と暮らしを支援する仕組みや人々
- 毎日の健康な生活とストレスのある社会
- 食をめぐる問題と地域の農業や生産者
- 科学技術の進歩と自分たちの暮らしの変化
- 将来への展望とかわかりで訪ねてみたい人や機関
- 町作りや地域活性化に取り組んでいる人々や組織
- 地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々
- 商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会
- 防災のための安全な町づくりとその取組

- 水生生物の分布の様子や水質の変化をグラフ化
- 生き物図鑑づくり
- 地域の企業について調べよう
- ゲームプログラミング講座
- 庭師になろう
- ファシリティドッグについて知ろう

## ⑬特別活動

- 建築クラブ
- ギネスに挑戦クラブ
- ペット動物クラブ
- アウトドア野外活動クラブ
- いい言葉あつめクラブ
- 科学クラブ
- まんがクラブ
- 〇〇公民館〇〇クラブ
- 手話クラブ
- 英会話クラブ
- ドイツ語クラブ
- イタリア語クラブ
- ぬいぐるみづくりクラブ
- 地域探検クラブ
- ニュース番組づくりクラブ
- 新聞づくりクラブ
- クッキングクラブ
- 小学生が先生になり年齢の小さい子に教えるクラブ
- おりがみクラブ
- あみものクラブ
- 応援クラブ
- 図書館に行こう
- 防犯教室
- 災害教室
- 交通安全教室
- 整理整頓教室
- ことばづかい教室
- なかよし教室
- おそうじ教室
- マジック・手品教室
- 子どものためのカラオケ教室
- 子どものための落語教室



- 子どものための漫才教室
- 年中行事二十四節気教室
- クリスマス集会
- こんな大人になりたい人を見つけるクラブ
- クリスマスシリーズ（クリスマスキャンドルづくり・クリスマスケーキ・七面鳥料理に挑戦）
- おせち料理をつくろう
- 公民館ボランティアクラブ
- 世の中の職業について知ろう
- 警察犬・盲導犬・聴導犬について知ろう
- 郷土料理限定クッキングクラブ
- 将来の職業への夢や希望をふくらませるクラブ
- 子ども議会
- 〇〇寺座禅体験
- 自転車の乗り方教室・自転車の手入れの仕方
- 将棋盤・バットづくり
- ぬいぐるみのお泊まり会
- 保育士体験
- 障害のある子どもに関する講座
- おもちゃの修理教室
- プレイランド
- ドローン教室
- スクラップブッククラブ
- 親子で撮る写真撮影教室
- 親子のための魚のさばき方料理教室
- ネイルおしゃれ教室
- 温泉名人
- 指笛・口笛教室

参考：小学校学習指導要領解説 国語編・社会編・算数編・理科編・生活編・音楽編・図画工作編・家庭編・体育編・道徳編・外国語活動編・総合的な学習の時間編・特別活動編（平成20年）、平成28年度公民館活動に関するアンケート（岡山県公民館連合会）



- ※子どもの意向を聞いて反映することが大切である。
- ※小さなニーズに応える。
- ※地域の学校の各教科や総合的な学習の時間の内容を知るために、小学校や中学校の先生とよく相談の上実施するとよい。また、地域の幼稚園や保育所とも連携・協働する。「今度公民館で子どもを対象とした講座をしたいんですけど・・・」「今学校ではこれやってるんで、公民館でこれやってくださったらうれしいです。」理科のものづくりでは例えば2種類以上のものづくりを行う等という内容になっているので、学校でどのものづくりをしているかを認識した上で公民館で行うものづくりを検討する。同じものづくりを補充的発展的に取り扱ってもよいし、別のものづくりをしてもよいと考える。他教科でも同様のものがある。
- ※地域でいっしょにやってくれそうなボランティアなどの協力者を得る。中高大学生にも積極的に関わってもらおうとよい。
- ※必要に応じて保護眼鏡を使用する。小学校では実験の中で不測の事態に備えて保護眼鏡を使用している。
- ※学校運営協議会に公民館職員が参加し、学校と協働できるようにすると取り組みやすくなる。
- ※公民館に幼稚園・保育園・小学校・中学校の教科書や学習指導要領・各教科領域の解説編等をそろえておくと理解が進みやすくなる。
- ※育てたい子ども像の共有を行うことが大切である。「〇〇市町村の子がこんな子になってくれたらいいな。」→「どんな講座をしようかな。」
- ※成果の共有を行う。「こんな姿がみられた。やってよかったね。」
- ※学校では見られない子どもの一面が見られるかもしれない。子どもを多面的に理解し見守ることができる。学校の先生や保護者に「〇〇ちゃん、こんないいところが見られましたよ。」と言えたり、気になる子は先生や保護者に相談できることで、セーフティーネットになる可能性がある。学校や保護者にはできなくて、コーディネーター・ボランティア・公民館職員等にしかできないことがある。
- ※できる範囲で楽しむ。楽しそうな大人の姿を見るのは子どももうれしい。

## 中核コーディネーター Q&A



Q1：「中核コーディネーターとは何ですか？」

A1： 中学校区を統括する地域コーディネーターのことです。岡山県独自の用語です。

中核コーディネーターは、現在、学校支援、放課後・土曜日等支援、家庭教育支援について個々に進めている活動をそれぞれのコーディネーターなどの人と人、人と施設をつないだり、地域の人材や資源を活用したりしながら、課題解決ができる地域の核となる実践的なリーダーのことです。今までの活動と全く異なるものではなく、「中学校区の地域コーディネーター」というイメージで、いわば、「コーディネーターのコーディネーター」です。キャッチフレーズは「支援」から「連携・協働」へ、「個別の活動」から「総合化・ネットワーク化」へ。

Q2「どのように進めていけばいいですか？」

A2： 中核コーディネーターには、いろいろな在り方があってよいと考えます。たくさんの団体をつなぐというのは、あくまでイメージ。例えば、家庭教育支援と公民館をつなぐだけでもよい。たった一つのつなぎでも大きいです。それから、よりよく充実させる方向が見えてきます。資源を提供し合う、思いを分かち合っていく、子どもをめぐる状況やめざす子ども像について共有することから、よりよい方向が見えてくることも多いです。

Q3：「コーディネート機能をどのように高めていけばいいですか？」

A3： 中学校区の中の、学校支援・放課後支援・土曜日等教育支援・家庭教育支援・公民館・就学前の子どもを対象とした事業・中高生の出番作り・NPO法人・企業などの事業や団体についての情報を生涯学習課職員や地域コーディネーター・ボランティア等と共有することから始めたらいいと考えます。

Q4：「多様な活動のためにはどのようなことに気をつければいいですか？」

A4： 中学校区の子どもたちにどんなふうに育ててもらいたいかというめざす子ども像を生涯学習課職員・学校・公民館職員・地域コーディネーター・ボランティア・NPO法人・放課後子ども教室・家庭教育支援等の関係者と話し合ってみるとどんな活動をしたらよいか見えてくるはずです。

また、「大切なことは子どもに聞け」という言葉もあります。学区の子どもや保護者から率直にニーズを聞くのもよいと考えます。アンケートをとってもいいし、ちょっとした立ち話から出たことをていねいに拾い上げて実践に生かす方法もオススメです。



発行 岡山県生涯学習センター

〒700-0016 岡山市北区伊島町三丁目1番1号  
TEL:086-251-9751 (振興課)  
<http://www.pal.pref.okayama.jp/>  
<https://www.facebook.com/okasyogaise>